令和３年度

運営諮問会議報告書

鳥羽商船高等専門学校

令和３年度　運営諮問会議　議事概要

令和４年３月７日（月）　１３：３０～

場所：１号館３階会議室及びオンライン

運営諮問委員出席者
対面参加委員：今津委員（議長）、鳥山委員、増田委員
オンライン参加委員：菅沼委員、眞﨑委員、本田委員、木本委員、三宅委員
運営諮問委員欠席者：東委員

本校出席者：和泉校長、伊藤副校長、坂牧学生主事、橋爪寮務主事、江崎研究主事、坂野事務部長、五十棲総務課長、國枝学生課長、水野総務課課長補佐、高橋企画・地域連携係長、高尾企画・地域連携係員

オンライン陪席者：林専攻科長、窪田商船学科長、出江情報機械システム工学科、西川一般教育科長、山下電子機械工学科長、溝口制御情報工学科長

１．開会挨拶学校概要（和泉校長）

総務課長による運営諮問委員の紹介・挨拶後、和泉校長による開会挨拶及び学校概要の説明が行われた。施設環境整備が喫緊の課題で、以下について取り組んでいる旨、説明があった。

（１）学校強靭化による災害支援機能を備えた練習船代船
（２）浮き桟橋・艇庫地区整備
（３）新国際寮の設置

また、上記（１）～（３）を基軸とし、教育の質の保証、人材育成を行う旨、委員に説明した。

現在本校で取り組んでいる教育の質の保証・人事育成の施策として、全校で PBL を取り入れて、船の技術、海の技術、機械等の制御技術分野で情報化を図り、現場で育つ技術者、産業人の育成を目指している事例紹介があった。

他には、英語力強化のため、グローバル教育拠点の話があり、実施例として、今年度 KCC とオンライン英語交流の事例の説明があった。また、学生会制作鳥羽丸実習と、スマートフォンを用いた給餌の事例の紹介があった。

２．議長選出

和泉校長の挨拶終了後、議長選出が行われ、今津委員が議長となり、その後の議場進行を行った。

３．本校の現状と課題（伊藤副校長）

伊藤副校長による本校の現状と課題について、以下の６つの項目について説明が行われた。

（１）本校の概要
（２）入学から卒業まで
（３）３つの支援室
（４）教育の質の向上と地域連携など
（５）学生支援と生活支援
（６）研究活動と学生の活躍

（１）については、教育理念、高専のシステム、本校のセールスポイント、学科概要、授業、会議等のオンライン化について説明があった。

（２）については、巡回 PR, 新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた学生募集活動（WEB 開催、少人数の個別相談）、オープンキャンパス、他機関開催説明会参加有無状況、本校の入試制度、倍率、評定、成績、原級留置、退学、就職・進学について説明があった。

（３）については、基礎学力定着、原級留置率低下を目的とした学修推進支援室、授業カリキュラムと支援事業（就職支援セミナーなど）によるキャリア支援を行うキャリア教育推進室､国際交流･TOEIC 対策支援を行うグローバル教育推進室について説明があった。

（４）については、J 科のカリキュラム、遠隔授業・分散授業の紹介、次世代海洋人材育成の協議会、自治体、民間企業との包括協定など他機関との連携、地域との連携・貢献について説明があった。

（５）については、学生からの相談を受ける学生相談室、まなびの継続を実施する教務主事室の支援、生活指導、学生会活動支援を実施する学生主事室、寮生、学校との意見交換保護者との情報共有を実施する寮務主事室について説明があった。

（６）については、事前配布資料（学生の活躍（新聞、ホームページ））と内容が重複するため、説明を割愛することとなった。

４．各委員の質疑・コメント

伊藤副校長の説明後、今津議長より、各委員に対し、質疑・コメントを求めた。委員からの質疑に対しては、伊藤副校長が回答した。

【三宅委員】　本科卒業生のうち、大学３年次編入学及び専攻科に進学する割合を教えてほしい。
【伊藤副校長】　大学３年次編入学は年度によってまちまち。専攻科は、工業系については本科定員の１割程度入学。商船系は、２～３名入学している。

【鳥山委員】　オンライン授業について、奨学後援会から支援により、学生活動の一助になったと、伊藤副校長の説明で確認できた。
質疑がなかったため、伊藤副校長の回答なし。

【菅沼委員】　他の高専と違うアピールをしてほしい。学生を立派な社会人として育ててほしい。同窓会として、創起１５０周年を迎えてキックオフしたところで、学校と連携しながら進めていく。
質疑がなかったため、伊藤副校長の回答なし。

【眞﨑委員】　教育相談体制の充実が良い。オンライン授業の授業内容定着率が伊勢高として課題。どのような対応されているかお聞きしたい。次に、成年年齢が１８歳になることによる消費者教育をいかにしているかお聞きしたい。最後に、退学学生の行き先をお聞きしたい。
【伊藤副校長】　オンライン授業では限界があるため、対面授業を主とし、新型コロナウイルス感染症が拡大した際に、オンライン授業も可とした。消費者教育については、学生主事室主催の講演、講習にて対応している。補足にて坂牧学生主事より、規範意識は自分自身でとるよう教育をしていると説明があった。（アルバイトの許可制、原付の免許の制限がないことなど）また消費者教育については、オンライン警察講演会を実施し、学生だけではなく、保護者にも見てもらうようにした。退学者への対応は、３年次での退学が比較的多く、高卒と認められる同じ単位数が必要数あれば、その後の進路につなげられる。しかし、これに該当しない場合、通信制高校に転学するケースもある。

【本田委員】　次年度１名Ｉ科から１名新採をとった。今後もDX、ICT、AIに通じる人材育成をお願いしたい。
【伊藤副校長】　そのような人材を育成するよう取り組んでいく。

【木本委員】　本校卒業生が４４名働いている。コミュニケーション能力を育てていただきたい。また英語力の強化、資格取得等学生が勉強する動機づけを行ってほしい。
【伊藤副校長】　企業様の求める部分に到達していないため、学校独自の手法、目標設定を高め、入社後の活躍に直結できるように学生を継続して指導する。

【増田委員】　学生募集において、寮の資料を見て、東日本からの学生が少ないように見えた。今の時代、オンラインで魅力発信できるのではないか。また、地域中小企業への就職をお願いしたい。

【伊藤副校長】　県外からの学生は商船学科で、ほぼ身内に海運関係者がいる。首都圏から入学者が減少しているのは課題である。Web 説明会などで挽回していきたい。地域との協働については、J 科のオーダーメイドカリキュラムにより、地元企業に就職する際、即戦力となりえる。

【今津議長】　本校以外の大学・高専全体として言えることとして、同期同士のサポート関係をどのようにカバーするか（コロナ渦で顔を合わせる機会がなかったため）。また、卒業生は完成して社会に出ていない。ただし、可能性を持っている。向上心をどのように持たせるかが課題となる。
質疑がなかったため、伊藤副校長の回答なし。

５．その他

橋爪寮務主事より、全国より入学生が入寮している、一方で東日本の入学生の少なさは課題として受け止める。また、英語力強化については、単に語学留学だけではなく、疑似インターンシップ、SDGｓをテーマにしたプログラムに参加実績があることを説明した。なお、今年度は、オンラインで週２回ハワイの担当者とオンタイムでオンラインプログラムを実施した旨、説明した。

６．開会挨拶（和泉校長）

和泉校長より、閉会挨拶として、各委員の質疑・コメントに対する御礼、提言を今後に生かすことを述べ、会議が閉会した。

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議次第

日　時：令和４年３月７日（月）　１３：３０～１５：３０
場　所：鳥羽商船高等専門学校　１号館３階会議室、オンライン

１　開　　会

２　委員の紹介

３　校長挨拶

４　学校概要説明

５　配付資料の確認

６　議　　事

（１）本校の現状と課題について

（２）その他

７　閉　　会

令 和 3 年 度 運 営 諮 問 会 議 委 員 名 簿

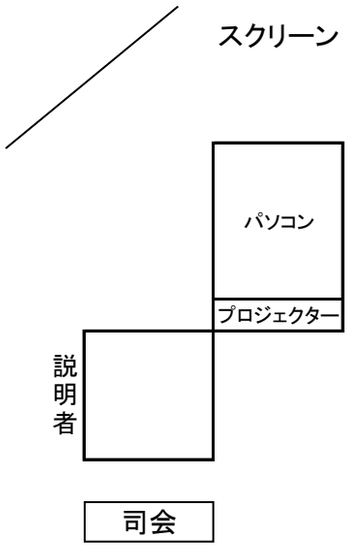
氏　　名	現　　職	備　考
今　津　隼　馬	国立大学法人東京海洋大学　名誉教授	
鳥　山　光一郎	鳥羽商船高等専門学校奨学後援会　会長	
菅　沼　延　之	鳥羽商船高等専門学校同窓会　会長	
東　　和　彦	鳥羽市立鳥羽東中学校　校長	欠席
眞　﨑　俊　明	三重県立伊勢高等学校　校長	
本　田　直　基	美和ロック株式会社　伊勢工場群　総務部長	
木　本　啓　輔	シンフォニアテクノロジー株式会社　電子精機本部 伊勢製作所副製作所長	
増　田　峰　知	公益財団法人三重県産業支援センター 事業部技術支援課　課長	
三　宅　秀　人	国立大学法人三重大学　大学院地域イノベーション学 研究科　副研究科長	

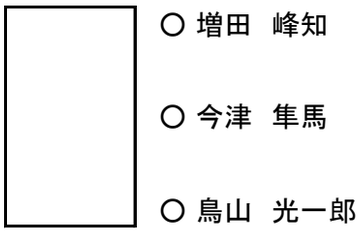
※　委嘱期間　　令和３年１２月１日～令和５年３月３１日

令和3年度　運営諮問会議座席表

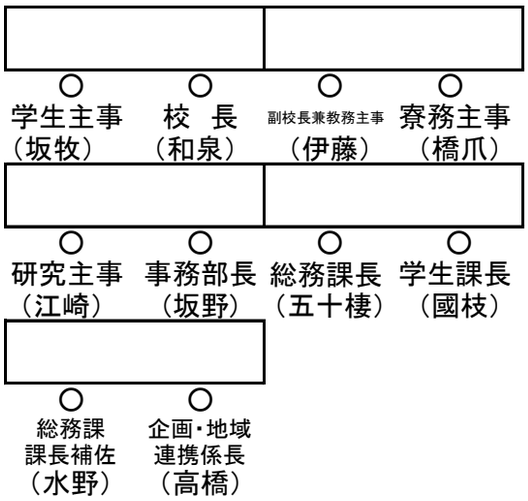
日時：令和4年3月7日（月）
13：30～15：30

場所：1号館3階大会議室
オンライン





菅沼委員、眞﨑委員、本田委員、木本委員、三宅委員は
オンライン出席。東委員は欠席。



※　学科長、専攻科長はオンライン陪席参加（各個人の研究室等）

入口

令和４年３月７日

令和３年度　運営諮問会議資料

１　令和３年度　鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議次第

２　令和３年度　運営諮問会議委員名簿

３　令和３年度　運営諮問会議座席表

４　令和３年度　年度計画達成状況

５　鳥羽商船高専における学校経営・課題対応図、志願者減少要因への対応方策

６　令和２年度実施高等専門学校機関別認証評価　評価報告書

７　令和２年度選択的評価事項に係る評価　評価報告書

８　令和３年度　学校要覧

９　学校だより　Vol.９３

１０　２０２２　学校案内

１１　学生の活躍（令和３年度）（新聞記事・ホームページ）

１２　鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議規則

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
Ｓ：計画をはるかに上回る実績を残した
Ａ：達成度 100%以上
Ｂ：達成度 70%～100%未満
Ｃ：達成度 70%未満
－：該当なし

	年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
１．１　教育に関する事項							
（１）入学者の確保							
①-1	（１）入学者の確保 昨年度に引き続き、学内での意見聴取を行い、コンテンツの拡充やより見やすいホームページ作りのため、以下のことを行う。 ・リンク切れコンテンツの整理 ・掲載情報が古いページの整理及び更新 ・ホームページ内の写真の更新	広報・公開	総務	・リンク切れコンテンツについては更新完了。今後もリンク切れコンテンツがないかを都度確認していく。 ・各部署が所掌するページの情報更新（コンテスト結果など）については、更新作業を各部署へ２月に依頼した。 ・TOPページ等の写真の更新作業については、来年度更新予定。	TOPページ等の写真更新について、実際の学生や教職員の顔写真を掲載すると、悪用されるリスクがあるため、法人向けに無償提供されている実在しない顔画像を利用するなど、プライバシーに考慮した写真素材の使用を検討する。	B	◎
①-2	今年度は、実施方法や場所を工夫して対面での説明会の実施可能性を検討する。 また他高専との合同説明会については、引き続き参加し、志願者確保を目指す。	教務	教務	今年度はWebの学校説明会・相談会を継続実施しながら、対面での学生募集にかかる説明会・イベントを実施した（実施状況は下記のとおり）。対面で行うイベントは、1組あたりの参加人数を制限し、参加日2週間前からの体調チェックを依頼するなど新型コロナウイルス感染症の対策を行った。また、10月のオープンキャンパスは中止となったが、代替イベントとして、「練習船乗船体験」、「学校見学」を実施した。 なお、他高専との合同説明会については、新型コロナウイルスの影響により一部中止となったが、志願者確保のため積極的に参加した。 令和4年度志願者倍率は、商船学科1.3倍、情報機械システム工学科1.7倍となり、令和3年度の志願倍率、商船学科1.3倍、情報機械システム工学科2.2倍に比べると低くなった。 出願者数を昨年度と比較すると、商船学科は2名増、情報機械システム工学科は39名減であった。情報機械システム工学科の志願者数は、減少したものの、特別推薦選抜での出願者は増加している。志願者減の要因としては、昨年度一般推薦選抜にて20名あまり不合格者が出たことが影響していると考えられる。 ・Web学校説明会（全2回　7/31参加者38名、10/9参加者20名）、・Web入試相談会（全5回　7/3：4名、8/7：2名、9/11：1名、10/23：10名、11/20） ・【対面】オープンキャンパス（8/9-10　参加者227組 うちS科志望68名　J科志望159名、10/2　中止） ・【対面】塾向け学校説明会（10/18　参加者　10校）、・【対面】受験相談会（12/4　参加者26名） ・【対面】練習船乗船体験（10/23　参加者21組41名、・11/20　参加者16組29名）、【対面】J科希望者向け学校見学（10/30　参加者20組38名） （他高専との合同説明会） ・【対面】国公私立高専合同説明会（6/6 千代田区 7/11 大阪市） ・【対面】三重県３高専合同説明会（7/10午前 津市 参加者 20組, 7/10午後 四日市市 参加者12組） ・国公私立高専合同説明会（オンライン参加, 12/12 甲府市 12/19 横浜市 12/26 さいたま市　）		A	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
①-3	オンデマンド（動画等による学校紹介・オープンキャンパス）、オンライン（Skype等を用いたオンライン学校説明会・相談会）の実現、充実を検討するが、これらの相談会はすでに高専等に興味のある学生以外を引き付けるのは難しいので、オフラインでの対面説明会、相談会及びオープンキャンパスの充実も再検討する。 巡回PRについて、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、県内外中学校への巡回を検討する。	教務	教務	昨年度に引き続きオンライン学校説明会・相談会（Skype等利用）を継続しながら、対面での説明会、相談会、オープンキャンパス等を実施した（実施状況は①-２に記載）。 また、中学校への巡回PRは春（6月～7月）と秋（10月～11月）に実施し、春は県内中学校149校、秋は県内中学校149校および県外中学校106校への巡回を行った。	オンデマンド動画配信等、引き続きメディアの最大限の利用を検討課題とする。	S	◎
②-1	パンフレットについては、前年度変更できなかった学生写真及び学生コメントを検討し、その他の部分も含め、今年度に合う内容に更新する。また、女子学生に特化したパンフレット作製を検討する。 対面での入試広報活動が実施された場合、女子学生を参加させ、在学生の生の声を中学生に聞いてもらう機会を積極的に作っていく。	教務	教務	現行の学校案内パンフレットに電子機械工学科、制御情報工学科の記載が残っていること、また本科の学生として掲載されている写真のうち、卒業生の写真が掲載されていることなどより、大幅な見直しが必要となる。本年度、ワーキンググループ「学校案内パンフレットＷＧ」を立ち上げた。メンバーによる打ち合わせを行い、次年度作成の学校案内パンフレットの案を検討した。 また、10月に中止となったオープンキャンパスの代替イベント「練習船乗船体験（10/23，11/20）」にて在学生（女子学生を含む）による船内の案内を行った。		A	◎
②-2	留学生の確保に向けて、以下の取組を実施する。 ・令和２年度に新規作成したホームページの英語ページについて、日本語ページに設置されているトピックス等の投稿機能について、英語ページ版の設置を検討する。 ・新型コロナウイルス感染症について、特設バナーを設け、英語版の特設ページも作成する。	広報・公開	総務	自動翻訳ツールを導入したため、HP内の記事が自動的に英訳されるため、達成済み（画像内の日本語及びPDFデータは自動翻訳の対象外）。		S	◎
③	平成31年度からの大幅な入学選抜方法の改定に対し、入試業務の点検、入学者への追跡調査等により教務委員会でその評価を行い、修正等を検討する。	教務	教務	入学者選抜方法と前期成績の相関関係について、教務委員会で追跡調査を行った。調査の結果、選抜区分と前期成績について、推薦選抜の学生が成績の良い傾向があることを確認できた。 また、入試業務の点検を行い、令和４年度入試から、体験学習選抜の選抜方法を変更した。従来は１次選考（書類審査）合格者に対し、２次選考（面接、体験学習）を実施する２段階の審査方法を取っていたが、今年度より（書類審査、面接、体験学習）の結果を総合的に判定し、合否の決定を行うこととした。これにより、出願期間を１週間程度後ろ倒しすることができ、中学生が応募しやすい環境を構築した。		S	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
（２）教育課程の編成等							
①-1	・商船学科の次世代海洋人材育成など将来構想についての検討を継続して行う。 ・練習船鳥羽丸の代替新造船（商船高専系三番船）を目指し、５商船系高専が引き続き連携をして、商船系高専一番船である新大島丸及び二番船である新弓削丸の概算要求を支援する。 ・商船学科と海事システム学専攻を含めた一体型の具体的改革を実現するために、商船学科に何が必要か検討を継続する。 ・高度連携関係にある鈴鹿高専と同県内にある地理的強みを生かし、教育・研究・学生指導等について、緊密に連携協力を行う。 ・和歌山高専との包括協定に基づいて、研究を中心とする連携協力を引き続き推進していく。 ・「地域への貢献」を主として、コンソーシアムみえの事業などを通じて、引き続き県内高等教育機関と連携を図り、学生が活躍できる場を提供する。 ・鳥羽市との連携協定を基に地域のニーズを取り入れた取り組みを設定し、PBL教育を通じて、学生を地域課題に積極的に参加させ、問題の解決を図る。 ・GEAR5.0に応募し、未来技術の社会実装教育の高度化を図る。		校長	企画・ 地域連携	・練習船鳥羽丸の代船建造検討委員会を設置し、ワーキンググループや関連施設整備について全校的に検討している。代船の研究設備について、包括協定を結んでいる和歌山高専と意見交換し、準備を進めた。また、５商船高専が連携して新大島丸の建造と新弓削丸の仕様検討と概算要求を支援した。 ・鈴鹿高専との連携協力会議を２年ぶりにオンラインで実施し、両校の教務、学生、寮務、研究の各主事間及び事務部長間で連携事項について協議し、協力体制の強化を図った。（９月２４日） ・コンソーシアムみえの事業として実施予定の「みえまちキャンパス」に対し、学生募集を行った。 ・鳥羽市と連携して、GIGAスクール構想に伴うICT教育支援として小中学生対象の本校見学、出前授業を実施した。また、地元離島の採石場景観向上の取組みニーズに応じたアプリ開発に応じている。さらに、鳥羽市校長会にMicrosoft teamsの利活用を教授した。 ・本校からは、２件応募し（本校中核拠点校として１件、協力校として１件。）、本校中核拠点校として提出分について、採択された。		A	◎
①-2	専攻科学生の地域企業へのインターンシップ参加について、今後も推奨していく。また、豊橋技術科学大学等との連携教育プログラムについて、引き続き検討していく。			教務	地域企業へのインターンシップ情報について、本科生ならびに専攻科学生へ周知を行い参加を推奨した。 インターンシップの参加状況については、下記のとおり。 【本科生】商船学科：延べ４名（うち、オンライン３名）、電子機械工学科延べ２８名（うち、オンライン１７名）、制御情報工学科延べ２６名（うち、オンライン２０名） 【専攻科生】希望者なし 豊橋技術科学大学等との連携教育プログラムについては、引き続き検討する。		A	◎
②-1	学生が海外で活躍する機会を後押しするために、学生派遣を実施しているMELキャンプ等や逆に本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意している。今年度もその具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。また、海外留学を経験した学生に積極的に学内で発表を行わせ、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。		教務 グローバル 教育推進室	学生生活	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定していた派遣および受け入れのプログラムをいくつか中止せざるを得なかった。学生の隔離期間を考慮して、これまで海外で実施していたプログラムを、講師を国内に招聘して開催することも検討したが、渡航の困難さから断念した。 2022年春のプログラムについては、実施方法について各機関と検討した結果、国際情勢を考慮し昨年度と同様にオンラインでの開催となり、本校からは９名参加した。 海外留学を経験した学生には、学内で発表する機会を設け、留学未経験の学生の意欲の向上を図っている。 発表の様子は学内関係者限定で視聴できるようにしている。	渡航が可能な国への派遣であっても、隔離期間があると学生側が負担する費用や日程の確保が課題である。	A	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

	年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
②-2	海外教育機関から短期留学生を積極的に受け入れ、日本人学生と交流させることによって、日本国内でも国際コミュニケーション力を向上させる。 　学外講師を招いて実施するTOEIC対策特別講座などを通じて、積極的な支援を行う。	グローバル教育推進室	学生生活	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定していた受入プログラムを中止せざるを得なかった。 学外講師のTOEIC対策特別講座については、1月にオンラインで実施し、１５名が参加した。（昨年度は１５名参加）		A	◎
③-1	「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校体育大会」、「インターハイ」等の活動に積極的に参加し、加えて本校学生が優秀な成績を収められるよう支援して学生の意欲向上を図る。	教務 学生	学生生活	・アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2021　東海北陸地区大会で奨励書を受賞した。 ・WiCON2021(高専ワイヤレスIoTコンテスト)にて二次審査を通過し、提案が採択された。 ・第32回全国高専プログラミングコンテストで最優秀賞、優秀賞、敢闘賞の成績をおさめ、 加えて文部科学大臣賞、情報処理学会若手奨励賞、電子情報通信学校若手奨励賞、アバナード賞、KDDI賞を受賞した。 ・U-21プログラミング・コンテスト2021で、ピーエスシー賞を受賞した。 ・DCON2021(第2回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2021)で2位の成績をおさめ、加えてウエスタンデジタル賞、AGC賞を受賞した。 ・第10回高校・高専観測機器コンテストで特別賞、受賞回数最多勝を受賞した。 ・日本水産学会中部支部大会で、最優秀発表賞を受賞した。 ・全国総合体育大会（インターハイ）に少林寺拳法部が出場した。また、全国高等専門学校体育大会に陸上部、水泳部が出場した。 ・第56回全国商船高等専門学校漕艇大会（11月6日、7日）に出場し、準優勝の成績を収めた。 ・AIビジネス創出アイデアコンテスト2022に出場し、人工知能技術コンソーシアム会長賞（全国2位相当）を受賞した。（2月15日）		S	◎
③-2	ボランティアの依頼情報があった場合については、学校内の掲示板等に情報を周知する。地域と連携して学生主体の地域ボランティア活動を促進する。	教務 学生 寮務	学生生活	・鳥羽警察署で実施されている啓発活動ボランティア（交通安全県民運動）に参加し、本校の学生が代表して宣誓を行った。（11/30） ・例年ボランティアとして寮生がお手伝いしている町内会の大型ごみ回収について、町内会行事の開催自体が中止されているため、参加することができない状況である。	町内会との連絡を円滑に行い、再開時期を検討している。	A	◎
③-3	外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。 更には、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、学生の申請を促す。	グローバル教育推進室	学生生活	・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努めている。 ・「トビタテ！留学JAPAN」については、説明会の開催案内を周知すると共に申請者を募集し、2名の学生が採択されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により計画が実行できず、留学支援を辞退することになった。		S	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
Ｓ：計画をはるかに上回る実績を残した
Ａ：達成度 100%以上
Ｂ：達成度 70%～100%未満
Ｃ：達成度 70%未満
－：該当なし

	年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
（３）多様かつ優れた教員の確保							
①	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げる。	教員選考	人事労務	情報機械システム工学科教員の公募において、博士の学位を応募資格として掲げて選考を行った。		A	◎
②	クロスアポイントメント制度の活用を検討する。	教員選考	人事労務	クロスアポイントメント制度の活用を検討した。		A	◎
③	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 また、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。		人事労務	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知している。育児休業から復帰した女性教員のライフサイクルに合わせ、早出労働勤務を適用した。		A	◎
④	採用した外国人教員への支援体制を充実させる。	教員選考	人事労務	日本滞在歴が長く日本語も堪能であり別途支援が必要ではない。必要に応じて対応していく。		A	◎
⑤	長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を可能な限り検討する。	教員選考	人事労務	教員人事交流を検討し申請した。		A	◎
⑥-1	・法人本部による研修への参加を推奨し、かつ、国立高等専門学校におけるファカルティ・ディベロップメントを実施するとともに、学校の枠を超えた自主的な研修グループ等の活動を推奨する。 なお、教員の能力向上を目的とした各種研修について、積極的な参加を推奨する。 ・高専機構主催のファカルティ・ディベロップメント研修会に積極的に参加させる。	教務	人事労務	本部主催の新任教員研修（5名）・中堅教員研修（2名）・管理職研修（2名）に参加させた。		A	◎
⑥-2	・学内においても教員ファカルティ・ディベロップメントを実施し、教員の能力向上を図る。	教務	教務	9月7日（水）に「教務的問題点の抽出と解決」をテーマとし、参加人数を各学科から3～6名程度に制限したグループワーク型ファカルティ・ディベロップメントを開催した。教員15名が参加し、授業など教務的な問題を抽出し、それに対する解決すべき課題をピックアップ，解決方法の案を検討した。 加えて、11月に本校カウンセラーによる「いじめ問題への対応」をテーマとするオンライン型ファカルティ・ディベロップメント講演会を実施した。		A	◎
⑦	教員顕彰等への推薦を行う。	校長	人事労務	教員顕彰について、教員・学生からのアンケートをもとに校長・副校長で選考を行い、1名を推薦した。		A	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
（４）教育の質の向上及び改善							
①-1	・モデルコアカリキュラムに準拠したシラバスを作成するとともに、積極的に学生の自主的勉学を促進するPBLを取り入れていく。	教務	教務	12月初旬より各担当教員にモデルコアキュラムに準拠した来年度シラバスが完成した。 また，情報機械システム工学科1年・2年・3年生のPBL，制御情報工学科，電子機械工学科4年の創造実験においてPBLを取り入れている。なお，創造実験では，専門技術を用いて地域の抱える課題を解決することに取り組んでいる。 なお，課題解決型のテーマとしては「漁業系・養殖（いかだの監視、養殖魚の給餌、藻場の可視化、牡蠣の養殖、漁獲かごの監視）」・「農業系（熟練者のみかんへの水やり再現、みかんの収穫予測、畦の草刈りロボット）」・「市町村との取り組み（鳥羽市の観光支援、玉城町の地域課題解決）・「小中学校への取り組み（プログラミング講座、操船VR体験）」などがある。		S	◎
①-2	数理・データサイエンス・ＡＩ教育の推進を図る。	教務	教務	商船学科・情報機械システム工学科の授業科目において「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルに準拠した内容の授業を行った。また「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度」について、令和４年度認定に向けて学校の体制等を定めた。		S	◎
②-1	・昨年度受審した機関別認証評価に基づく改善を進める。また、自己点検・評価を実施し、教育の質の向上に努める。	点検評価	企画・地域連携	これまで教員自己点検評価するシステムがなかったため、今年度よりトライアル版を構築し、１１月から１２月の間で実施した。結果を１月昇給評価に反映した。実施対応教員数４１（提出数）／４９（対象教員数）		A	◎
②-2	・STCW条約（船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）に基づく資質基準を維持するとともに、同条約に基づいた設備の点検を継続する。	STCW条約対策	教務	STCW条約に基づく資質基準の維持に努め、学内で実施するQSS監査を実施した。		A	◎
③-1	昨年度は情報機械システム工学科１年生・２年生に授業科目としてPBL１・２が導入され、今年度は同学科３年生の授業にPBL３が開始となることから、更なるPBLの導入を積極的に進めていく。	教務	教務	一昨年度から情報機械システム工学科1年生の授業科目としてPBL1が始まり，昨年度は2年生の授業科目としてPBL２、今年度は3年生の授業科目としてPBL3が実施されている。PBL1ではロボットの制御演習を通じたグループワーク，課題を達成できるよう進めている。PBL2では情報・機械・電気の要素技術を取り込んだ課題解決型のシステムづくりを通じたグループワークを行い、PBL３では身の回りの課題を工学的アプローチにより解決する仕組みの構築を目標として進めている。PBL２では、前期に2つのコンテンツを終えた学生のうち希望する学生は、PBL３の制作に加わることができ、上級学年との縦割り班で学習する機会を設けている。また、制御情報工学科，電子機械工学科の4・5年生からレクチャー，アドバイスを受ける機会を設ける等の取り組みを行うことで，専門的知識の向上以外にも，コミュニケーション力を始めとするチームとして目的を達成するための能力や，指導力などの能力の向上に努めた。		S	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
Ｓ：計画をはるかに上回る実績を残した
Ａ：達成度 100%以上
Ｂ：達成度 70%～100%未満
Ｃ：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
③-2	昨年度包括連携を締結したKDDIと連携し、モバイルシステム関連の講義を実施する他、アントレプレナーシップ育成の特別講義も実施する。これらを通じて教育コンテンツを開発し、全国高専で活用できるようにする。	研究主事	企画・地域連携	KDDIと連携し５G等先端技術に関する講義を実施したほか、デザインシンキング、アントレプレナーシップに関する特別講義を実施した。これらの実施映像を機構本部へ提供するなど、共通教材としての活用を進めている。なお、インターンシップはオンラインが多く、対面での実施数は少ない。 参加状況については、下記のとおり。 【本科生】商船学科：延べ４名（うち、オンライン３名）、電子機械工学科延べ２８名（うち、オンライン２０名） 【専攻科生】希望者なし	連携したすべての講義がオンラインとなった。学生アンケートを取った結果、会議ツールの各種機能を活用することで、対面と同等もしくは、それ以上の効果が出ている。	S	◎
③-3	引き続きＩＴパスポート試験・情報セキュリティマネジメント試験・基本情報技術者試験等の問題を教材として活用する。また、K-SEC提供のCiscoサイバーセキュリティ教材等を用いた実践教育を全学科で導入し、情報セキュリティ教育内容の高度化をはかる。	情報メディア教育センター	総務	情報機械システム工学科ではＩＴパスポート試験・情報セキュリティマネジメント試験・基本情報技術者試験等の問題を教材として活用した（例：工学リテラシ等）。K-SEC提供の教材等を用いた教育に関して9/2（木）に商船学科関係者およびK-SECでワークショップを行い、準備・検討を行った。		B	◎
④	高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、ビデオ教材を活用した教育、教員の研修、教育課程の改善、国立高等専門学校と技術科学大学との間の教育の接続、人事交流などの分野で有機的な連携等、可能性について検討する。	教員選考	人事労務	技術科学大学との人事交流について検討した。		B	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

	年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
（５）学生支援・生活支援等							
①	精神科医１名（月１日）、カウンセラー２名（月１日、週１日）を配置し、面接及び必要に応じて電話相談を実施する。また、学生相談室において、平日は心理的専門資格を有するものを非常勤職員として配置し、学生の相談を受け付けている。 　また、今年度も外部専門家を招聘し、本校教職員に対しての研修実施を検討する。	学生	学生生活	・学生相談は、教職員での対応のほか、精神科医1名及び臨床心理士2名、計3名の専門職で必要に応じて実施した。（延べ61件） ・現在、コミュニケーション能力に支援を必要とする4年学生に対して、来年度に向けた就職支援として、専門職（臨床心理士）の面談を開始した。 ・学生に対し、いじめアンケートを3回（6月、10月、1月）実施し、この結果に基づき、1年生全員に注意喚起を目的とした学生主事の講話を行った。また、結果に基づく現状調査を行い、個別対応を行った。（2月） ・高専生活に関するアンケートを2回（7月、11月）実施し、要観察学生に対しては、学生相談室長等による面談を実施した。 ・教職員に対し、いじめ防止関連の研修として、スクールカウンセラーによる講演を録画視聴にて実施した。 ・スクールカウンセラーによる自殺防止の講演会を実施した。（2月9日） ・鳥羽警察署による講演会「薬物乱用と少年法改正」を実施した。休日に遠隔により実施することで、学生と保護者が視聴出来るように実施した。（11月23日）		S	◎
②	奨学金制度を多くの学生が活用し、利便性を図るため、新入生入学時の説明会における案内や学内、ホームページへの情報掲載を行う。	学生	学生生活	入学時の手続説明動画（ホームページ掲載）・説明会での資料配付にて案内した。 その他、学生保護者に向けて案内郵送、学生に向けて学内のチャット機能やメール等にて周知を行った。		A	◎
③	学生のキャリア教育の統括的な支援を担う。１、２年生については学科横断的に社会人基礎力の養成を行う。３年生以上については、それぞれの学科の特徴を活かした就職力の養成を目指していく。	キャリア教育推進室	学生生活	(1)社会人基礎力養成 ・新入生オリエンテーション（コミュニケーション力向上）を実施した。（4月19日） ・リーダーストレーニングを遠隔により実施し、スクールカウンセラーによるネット環境下でのコミュニケーション力向上講演会、SDGｓ視点でのグループワークを行った。（9月25日） (2)就職力養成 ①人材広告企業による遠隔講義 ・工業系3、4年生を対象としたWeb 適性検査と就職活動講座を実施予定した。（11月19日） ・工業系3、4年生を対象とした面接対策講座を実施予定した。（11月20日） ②セミナー ・校内就職支援セミナーを実施した。（12月8日・12月9日、ZoomによるWeb形式、102社参加）		A	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
１．２ 社会連携に関する事項							
①	昨年度に引き続き、三重県の特徴である水産業、農業、観光業を支援する技術提供を行い、持続的なサービス提供に寄与する。また、これらの情報はホームページのニュースとして掲載するほか、年度末にはテクノセンター報として取りまとめていく。さらにSNSを通じて積極的に情報発信する。	研究主事	企画・地域連携	昨年度末に「みえスマート水産業研究会」を三重県と共に立ち上げ、本校教員が会長となり研究会等を実施することで水産業のIT化に取り組んでいる。４月には高専DCONで海苔養殖支援について発表を行い第２位の成績を得た。また、南部地域での柑橘栽培のIT支援にも継続的に取り組んでいる。鳥羽市の相差地域における来客予測についても機器や手法を刷新して進めた。 これらの成果は都度HPやSNSで発信する他、年度末にはテクノセンター報として発行した。	現場実証に行きづらい状況が続いているが、感染対策を十分に行っていく。	S	◎
②	第３ブロック拡大研究推進ボード、ＫＲＡと連携しつつ、テクノセンターが主体的に地域の企業や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。三重地方創生コンソーシアムや技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信をした上で知的資産化に努める。。	テクノセンター	企画・地域連携	外部資金調達について、KRAに積極的に支援していただくことで、申請数が前年度比140%増となった。今年度は、研究助成金への申請にあたり、5件支援いただいた。 各種イベントが中止になることが多く、対面での打ち合わせは減る一方で、中部イノベネットや海洋フォーラムなどのオンラインイベントに参加し事例紹介を行うことで共同研究・受託研究の受け入れに繋げていく。		A	◎
③-1	（機構本部のみの計画のため、省略）						
③-2	・学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、マスメディアに通知するとともに、コンテスト等で入賞した場合にも、積極的にマスメディア等へ連絡し広報活動に努める。 　またホームページへの掲載もあわせて行う。これらの情報を把握するために、コンテスト結果等を報告するためのFormsを作成する。	広報・公開	総務	・昨年度の新聞等メディア掲載数が３５件であったが、今年度は２月１０日時点でメディア掲載１３５件と約４倍となった。引き続き積極的にメディア等へ広報活動を行っていく。 ・コンテスト結果やプレスリリース報告用のFormsを作成し、学内へ周知した（報告実績１件）。		S	◎
	・一般市民の利用促進のため、地元の広報紙へ図書館の利用案内の掲載を依頼する。	図書紀要	図書	今年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、学外者の一般利用を中止したため、広報紙への掲載は実施していないが、一般市民から蔵書についての問い合わせがあった場合は対応している。	新型コロナウイルス感染症のため、学外者としての一般市民の利用を実施していない状況が続いている。	A	◎
１．３ 国際交流等に関する事項							
①-1	機構本部、関係機関との組織的・戦略的な連携の下に、相手国と連携・協議しつつ、その要請及び段階等に応じた支援に取り組む。	グローバル教育推進室	総務担当補佐	従来実施してきた国際交流事業について、コロナ禍においても実施できるような方法について関係各機関と検討している。 渡航ができない段階や渡航制限や渡航後の隔離などの規制が緩和された段階、各段階に応じた実施方法などを都度検討し、新型コロナウイルス感染症が終息した際に従来の事業が再開できるよう努めた。		A	◎
①-2～①-5	（機構本部のみの計画のため、省略）						

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
Ｓ：計画をはるかに上回る実績を残した
Ａ：達成度 100%以上
Ｂ：達成度 70%～100%未満
Ｃ：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
②	・学生に限らず教職員が国際化の重要性を認識するために、グローバル教育推進室を中心として「KOSEN」の海外展開を促進する活動を実施する。	グローバル教育推進室	総務担当補佐	海外留学を経験した学生の発表を、学生だけでなく教職員にも案内し参加を促すことで、学校全体の国際化の重要性の普及に努めた。 発表の様子は学内関係者限定で視聴できるようにしており、当日参加できなかった人にも周知した。 また学生だけでなく教職員の英語力向上プログラムの検討も行った。		A	◎
③-1	学生が海外で活躍する機会を後押しするために、学生派遣を実施しているMELキャンプ等や逆に本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意している。今年度もその具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。また、海外留学を経験した学生に積極的に学内で発表を行わせ、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。【再掲】	教務 グローバル教育推進室	学生生活	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定していた派遣および受け入れのプログラムをいくつか中止せざるを得なかった。学生の隔離期間を考慮して、これまで海外で実施していたプログラムを、講師を国内に招聘して開催することも検討したが、渡航の困難さから断念した。 2022年春のプログラムについては、実施方法について各機関と検討した結果、国際情勢を考慮し昨年度と同様にオンラインでの開催となり、本校からは９名参加した。 海外留学を経験した学生には、学内で発表する機会を設け、留学未経験の学生の意欲の向上を図っている。 発表の様子は学内関係者限定で視聴できるようにしている。【再掲】	渡航が可能な国への派遣であっても、隔離期間があると学生側が負担する費用や日程の確保が課題である。【再掲】		
③-2	海外教育機関から短期留学生を積極的に受け入れ、日本人学生と交流させることによって、日本国内でも国際コミュニケーション力を向上させる。 学外講師を招いて実施するTOEIC対策特別講座などを通じて、積極的な支援を行う。【再掲】	グローバル教育推進室	学生生活	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定していた受入プログラムを中止せざるを得なかった。 学外講師のTOEIC対策特別講座については、1月にオンラインで実施し、１５名が参加した。（昨年度は１５名参加）【再掲】			

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
Ｓ：計画をはるかに上回る実績を残した
Ａ：達成度 100%以上
Ｂ：達成度 70%～100%未満
Ｃ：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画		委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
③-3	外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。 更には、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、学生の申請を促す。【再掲】	グローバル教育推進室	学生生活	・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努めている。 ・「トビタテ！留学JAPAN」については、説明会の開催案内を周知すると共に申請者を募集し、2名の学生が採択されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により計画が実行できず、留学支援を辞退することになった。【再掲】			
④-1	※ホームページ関係については、（１）の①－１、②－２にて記載済み。		総務 総務担当補佐	・リンク切れコンテンツについては更新完了。今後もリンク切れコンテンツがないかを都度確認していく。 ・各部署が所掌するページの情報更新（コンテスト結果など）については、更新作業を各部署へ２月に依頼した。 ・TOPページ等の写真の更新作業については、来年度更新予定。 ・自動翻訳ツールを導入したため、HP内の記事が自動的に英訳されるため、達成済み（画像内の日本語及びPDFデータは自動翻訳の対象外）。【再掲】	TOPページ等の写真更新については、コロナ禍のため、マスクなしの学生たちの活動の様子や集合写真を撮影することがはばかられるため、今年度は実施を見送った。来年度はコロナの感染状況を考慮しつつ、使用する写真を教職員・学生を対象にコンテスト形式での募集を検討している。【再掲】		
④-2	日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。		学生生活	新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、現在は渡航を中止している。		—	—
⑤	令和元年度に作成した「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿った危機管理措置を講じ、海外渡航時の安全面への配慮を行う。また、外国人留学生に関しては、資格外活動状況についてのヒアリングを定期的に実施し、的確な把握と適正な指導を行う。		学生生活	外務省が定めるガイドラインを定期的に確認すると共に、本校が作成した「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って判断し、本校を通じて行う渡航を伴う国際交流事業は中止している。また、外国人留学生については、ヒアリングを実施して生活状況を確認した。		A	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
Ｓ：計画をはるかに上回る実績を残した
Ａ：達成度 100%以上
Ｂ：達成度 70%～100%未満
Ｃ：達成度 70%未満
－：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
２ 業務運営の効率化に関する事項						
２．１　一般管理費等の効率化						
事務の効率化及び管理経費の削減を推進する。	事務部 校長	総務課 学生課 （総務課財務担当補佐）	・事務室に設置してあるプリンタ(カラー含む)が１台のみであったので効率が悪かった。そのため、もう１台白黒専用のプリンタを購入することにより、業務の効率化を図った。 ・書類を保管しておくパイプ式ファイル等を再利用し、管理経費の削減を行った。		A	◎
２．２　一般管理費等の効率化　（機構本部のみの計画のため、省略）						
２．３　契約の適正化						
・引き続き真にやむを得ない場合を除き一般競争入札等によることを徹底する。 ・鈴鹿高専とのさらなる共同調達を検討する。また、物品の低廉な調達を目指し、近隣高専、大学との連携の在り方を探る。 ・入札結果等、公開可能な契約情報をホームページ上に公開する。		調達	・ガソリンの共同調達について鈴鹿高専と連携し、共同調達を実施した。 また、学術情報ネットワーク（ＳＩＮＥＴ６）について、東海地区５高専の共同調達手続きを実施し、入札を経て令和３年１１月１１日に契約締結した。来年度からの運用に向けて２月～３月にかけて学内において切替作業を実施した。 ・入札結果の情報公開について、令和元年度および令和２年度分の一般競争入札の実績一覧をＨＰにて公開した。		A	◎
３ 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画						
３．１　一般管理費等の効率化　（機構本部のみの計画のため、省略）						
３．２ 外部資金、寄附金その他自己収入の増加						
・産業界や地域等とのコンソーシアム、あるいは包括連携機関との共同による外部資金の獲得に積極的に取り組む。 ・学生の就職先や教員の諸活動で関わりのある海事、海洋、情報・機械システム等の産業界の参画を求めて「企業協力会（仮称）」の設立を検討する。 ・同窓会と共同イベントを実施し、寄附金の獲得につながるよう取り組む。	研究主事	企画・地域連携	包括連携を締結した中電CTI、KDDI、三重大学、三重県等と外部資金の獲得にむけてさまざまな公募に応募した。 2022年4月に鳥羽商船高専連携協力会を発足させることを決定し、年度内に企業等への案内を実施した。 同窓会が主催する子供向けイベントに協力し、体験航海や学校内イベントを実施した。		S	◎
４　短期借入金の限度額　（機構本部のみの計画のため、省略）						
５　不要財産の処分に関する計画　（機構本部のみの計画のため、省略）						
６　重要な財産の譲渡に関する計画　（機構本部のみの計画のため、省略）						
７　剰余金の使途　（機構本部のみの計画のため、省略）						

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
Ｓ：計画をはるかに上回る実績を残した
Ａ：達成度 100%以上
Ｂ：達成度 70%～100%未満
Ｃ：達成度 70%未満
－：該当なし

	年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
８　その他主務省令で定める業務運営に関する事項							
８．１ 施設及び設備に関する計画							
①-1	・「国立高等専門学校機構施設整備５か年計画」に基づき、高専教育の高度化への対応を目指し、「ものづくり」を先導する人材育成の場にふさわしい基盤的環境を整備するため、実習工場の改修を３月末までに完了させる。 ・総合情報センター、図書館、関連施設を統合したメディアラボ施設の整備を完了し、高等専門学校教育の高度化に貢献する。	校長 情報メディア教育センター 施設 環境整備	財務担当補佐 総務 施設	・実習工場の改修が進行中で今年度中に工事完了した。 ・総合情報センター、図書館、関連施設を統合したメディアラボ施設の整備を完了した。これにより高等専門学校教育の高度化に貢献する環境整備が大きく進んだ。		A	◎
	・ラーニング・コモンズの具体的教育活用を進めつつ、並行して図書、学術雑誌、視聴覚資料等の収集及び当該業務の電子化・効率化を通じて、図書館の学習支援機能の強化を図ることで、本校における情報メディア教育を充実させる。	図書紀要	図書	・ラーニング・コモンズにマルチラボと同一のPCを３台設置した他、大型ディスプレイ・ホワイトボード・メモ台付き椅子を整備しPBL環境の整備を行った。学生から要望がある図書の購入を推進するため、オンラインブックハンティングを実施する等、図書館の学習支援機能の強化を図っている。業務の効率化については、他高専の情報を収集しつつ、延滞図書の返却要請をメールベースで自動化する等の対応を行った。		A	◎
①-2	暁寮食堂同様、隣接する暁寮浴室についても非構造部材の劣化が見受けられるため、引き続き改修工事の要求を実施する。	施設 環境整備	施設	暁寮食堂、浴室ともに段階的に改修工事を行うよう検討を行い、営繕要求を行った。		A	◎
②-1	・教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	安全衛生	人事労務	・AED講習会を開催した。		A	◎
②-2	・「実験実習安全必携」を学生に周知し、安全管理を促す。	安全衛生	教務	・「実験実習安全必携」を学生便覧に盛り込み、学生へ配布した。		A	◎
③	昨年度３号館のトイレ改修で女子学生の利用するトイレの設置を行ったが、新型コロナ感染症防止の観点から更衣室、練習船鳥羽丸の女子学生居住区の改善推進が見送りとなったため、世情を鑑みながら改善について検討していく。。	施設 環境整備	施設	鳥羽丸代船建造検討委員会で、女子学生居住区の改善検討を行った。		A	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
Ｓ：計画をはるかに上回る実績を残した
Ａ：達成度 100%以上
Ｂ：達成度 70%～100%未満
Ｃ：達成度 70%未満
－：該当なし

	年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
８．２ 人事に関する計画							
（１）方針							
①	課外活動において、外部指導員の技術的指導を昨年度に引き続き実施するとともに、寮務についてアウトソーシング等の活用を検討する。これらが実施されることにより、教職員の業務負担軽減につなげる。		人事労務 学生生活	暁寮B棟の当直をアウトソーシングすることにより、教員の当直回数を削減し業務負担を軽減した。また、引き続きバスケットボール部の外部指導員を雇用した。		A	◎
②	教員の戦略的配置のための教員人員枠の再配分の仕組みを検討する。	教員選考	人事労務	校長・副校長を中心に検討した。		A	◎
③	若手教員確保のため、教員人員枠の弾力化を検討する。	教員選考	人事労務	校長・副校長を中心に検討した。		A	◎
④-1	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げる。【再掲】	教員選考	人事労務	情報機械システム工学科教員の公募において、博士の学位を応募資格として掲げて選考を行った。【再掲】			
④-2	クロスアポイントメント制度の活用を検討する。【再掲】	教員選考	人事労務	クロスアポイントメント制度の活用を検討した。【再掲】			
④-3	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 また、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。【再掲】		人事労務	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知している。育児休業から復帰した女性教員のライフサイクルに合わせ、早出労働勤務を適用した。【再掲】			
④-4	採用した外国人教員への支援体制を充実させる。【再掲】	教員選考	人事労務	日本滞在歴が長く日本語も堪能であり別途支援が必要ではない。必要に応じて対応していく。【再掲】			
④-5	男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、関連情報を教職員へ提供し、外部が主催する男女共同参画に関する研修等に教職員を積極的に参加を促す。 　また、学生に対しても様々な意識啓発を行い、関連する各種イベントへの参加を促す。	男女共同参画推進室長	総務	男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、男女共同参画に関する情報を学生及び教職員へ提供した。 メール、ポスター掲示による周知のほか、今年度はTeamsに男女共同参画推進室のチームを作り、一般向け、女子学生向けのチャネルを設定し、室長から男女共同参画に関する情報を発信した。		A	◎
⑤	・教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修へ計画的に実施あるいは参加させ、資質の向上を推進する。 ・採用された教員の学内新任研修を実施する。		人事労務 教務	・人事交流を実施した。 ・職種や職位、業務別に開催される様々な研修に参加させた。 ・新任教員への校内研修を、講義受講、教務業務など３度にわたり、実施した。		S	◎

令和３年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和３年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
－：該当なし

	年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	計画に対する課題 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状況自己評価
（２）人員に関する指標（機構本部のみの計画のため、省略）							
８．３ 情報セキュリティについて							
	本校情報セキュリティポリシー関連規則を改定し、機密性情報区分の明示、安全区域、管理区域等の明示および徹底をはかる。また、Azure Information Protection (AIP)の活用に関する周知および運用を徹底し、職責等に応じて必要となる実践的な情報セキュリティ教育を実施する。 引き続き「すぐやる３箇条」を周知徹底し、定期的に情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための啓発として事例紹介等を実施する。 セキュリティ管理委員会を開催し、前述のセキュリティ教育状況について受講数等推進状況を確認し、必要があれば対策の有効性について議論・見直しを行う。 学外機関との連携として引き続きMieCS-ISACに参画し、近隣地域機関と共同で情報セキュリティインシデントの予防や啓発活動に取り組む。	情報メディア教育センター	総務	本校情報セキュリティポリシー関連規則を改定し、機密性情報区分の明示、安全区域、管理区域等を明示した。また、Azure Information Protection (AIP)の活用に関する周知を運営委員会および教員会議にて行った。 「すぐやる３箇条」「情報セキュリティインシデントの予防」および「被害拡大を防ぐための啓発」として学校運営委員会、教員会議、メール等で継続的に周知している。 学外機関との連携として引き続きMieCS-ISACに参画し、近隣地域機関と共同で情報セキュリティインシデントの予防や啓発活動に取り組んでいる。既に第１回全体会議に参加しており、第２回全体会議は鳥羽商船高専主幹で12/6（月）にオンライン開催された。		A	◎
８．４ 内部統制の充実・強化							
①-1 ～ ②-1	（機構本部のみの計画のため、省略）						
②-2	高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	校長	総務	本部から「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」が送付され次第、全教職員へ周知し、セルフチェックを実施した。未提出者へは提出するよう、呼びかけを行った。実施対応教職員数１１４（提出数）／１１４（対象教職員数）		A	◎
②-3 ～ ③	（機構本部のみの計画のため、省略）						
④	公的研究費不正使用防止策を確実に実施し，教職員に不正防止の周知を定期的に行う。 また，コンプライアンス研修、研究倫理教育（eラーニング）も実施し，不正防止の意識付けも行う。	校長	財務・経理	昨年度より4月当初に全教職員宛に「公的研究費使用マニュアル」をメールで周知することとし，公的研究費使用ルールの確認を定期的に意識づけることとした。 新規採用の教職員には都度マニュアルを配付し，公的研究費の使用ルールについて説明している。 コンプライアンス研修については2～3月にeラーニングにて実施した。		A	◎
⑤	（機構本部のみの計画のため、省略）						

鳥羽商船高専における学校経営・課題対応図

各高専の課題

1．校内施設・環境整備と練習船代船建造
2．教育の質の向上と教職員の採用・配置
3．情報セキュリテイと入試等広報活動の持続的強化
4．就学支援体制の強化
5．男女共同参画とキャリア支援の強化
6．外部資金による研究力の向上と教育への還元

中長期的要因

1．国際/女子学生部屋の不足、学生募集に影響、県内15歳人口の減少
2．担任をもつことに対する教員意識の変革要、教育研究等活動の評価法改善要
3．教職員の学生指導や保護者への対応をはじめとする日常業務の負荷増
4．担任と各主事室との情報共有の一層の充実、学生や保護者への「誰一人取り残さない」教育の質保証と提供が求められている
5．女性教員や学生の確保、学科ごと担任ごとの就職支援の改善、入学から就職まで、卒業後まで学科・学年通貫のキャリア支援が必要、海事・物流産業の変革期
6．海事、水産、海洋分野におけるＤＸの推進に貢献する情報・機械システムの教育研究の始動と教育への還元、学科によりＢＹＯＤ未達

短期的要因

【令和２年度から現時点までのコロナ禍】
1．感染症の対応による遠隔授業の導入
2．課外活動を含む学校活動の量的低下、設備、リスク、種目離れ
3．保護者と学生の将来への不安
4．寮生生活、通学生の家庭を含むトータルセキュリテイ
5．勉学その他活動環境の確保（寮内Wi-fiや課外活動の場所など）
6．寮務や事務部門等にわたる残業慢性化
7．新学科学年進行と専攻科カリキュラム
8．グローバル教育推進における海外派遣と留学生の滞留

学校の強み・考えられる対応「ＡＬＬ鳥羽」で取り組むべき課題

人づくりを通じて海づくり、海事、情報と機械の次世代産業と地域経済に貢献する

マリンリゾート・コアキャンパス

誰一人取り残さない-SDGsに貢献するマリン・キャンパス
練習船、寮や課外活動等の施設整備をコアとする学生と地域が共生する「鳥羽商船モデル」

NIT-TOBA COLLEGEとして海のシリコンバレー地域構想と共創
地域社会に溶け込むキャンパスタウンデザイン、地域デザインの工学を擁する大学等との連携

教職協働を通じたALL鳥羽コア人材のスキルアップ、複数担任など学年通貫の学生支援

□連携協力会（仮称）の創設、同窓会・産業界との産学官金連携強化と海洋ロボット整備産業などの地域共創による資金力Up
□魅力ある２学科・専攻科体制と学科横断のコースなどの検討
□学生は寮とキャンパスをコアとして街に住む。女子学生の増加と進路支援を含めた学校対応
□土地の有効利用
□教育力と研究力の強化と教育研究や課外活動の適切な評価
□情報セキュリティとポータルサイトによる保護者からも「見える」環境構築　小中学生への海やICT、DXへのいざない、中学校訪問から就職支援まで、入口から出口まで生涯キャリア支援
□練習船代船建造、桟橋架け替え、船舶運航センター創設（仮称）、バーチャルグローバルキャンパス-内外高等教育機関と連携強化

鳥羽商船高専における志願者減少要因への対応方策

要　　因

中長期的要因

- １５歳人口の減少（本区所在地区の中学３年生は１０年前より２５％減少）
- 集団生活への不安
- 中学生の理系離れ
- 私立高校授業料無償化による私立高校志向
- 学生支援への不安
- 進路に対する不安

短期的要因

- コロナ禍の影響
- 長距離通学の不安
- 入寮への不安
- 個室要望
- 課外活動の制限
- 公共交通機関の減便
- 受験の際の会場移動に対する不安
- 入試広報機会の縮減・リモート化

考えられる対応

入試改革

最寄り地等受験制度を県外志願者に積極的に案内
他高専との併願を検討し、本校第二希望以下も積極受入
WEB出願システムでの出願の容易化
学校長推薦以外（自己推薦など）の入試制度導入の検討

広報活動・情報発信の充実

- 近隣府県（鉄道沿線）に対する中学校訪問の強化
- 海に近い地域に所在している全国の中学校に対し、学校案内パンフレット送付
- 中学生対象の説明会などにおいて、就職だけでなく、大学３年次編入受験可能校が多数あることを発信
- 本校PR用動画を学生が作成する。

ホームページ、学務支援システムの導入等（保護者がIDとパスワードでいつでも学習状況を確認できる等々）

優秀な成績を残した部活動、各種コンテスト等について新聞、テレビ等メディアに取り上げられることにより、課外活動等が活発であることをホームページ等で積極的に発信

鳥羽市内小中学校で本校が実施した「GIGAスクール構想」で導入される機器を用いたICTサポートを、三重県内の自治体においても展開

学生支援の強化

奨学給付金等の充実を検討
年度における担任による面談の強化（＞２）
スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー増員の検討
学生食堂の自動販売機のIC化検討
商船学科をはじめ女子学生の就職と進学の支援充実

同じ棟に男子学生と女子学生が居住するため、寮棟の増強の検討ともに、近隣の戸建て・マンションのシェアハウスとしての借上げなどの補助等

令和３年度　運営諮問会議資料掲載URL

〇令和２年度実施高等専門学校機関別認証評価　評価報告書
https://www.niad.ac.jp/media/006/202103/no6_1_3_toba_k202103.pdf

〇令和２年度選択的評価事項に係る評価　評価報告書
https://www.niad.ac.jp/media/006/202103/no6_1_3_toba_s202103.pdf

〇令和３年度　学校要覧
https://koho.s.toba-cmt.ac.jp/wp/wp-content/uploads/kohoshi-yoran2021.pdf

〇学校だより　Vol.９３
https://koho.s.toba-cmt.ac.jp/wp/wp-content/uploads/gakkoudayori-93.pdf

〇２０２２　学校案内
https://koho.s.toba-cmt.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022-schoolsyokai.pdf

2021年度 学生の活躍記事（本校HP）

No.	日　付	記事タイトル	対象学生	備　　考
1	2022.01.06	第１０回高校・高専気象観測機器コンテストにて特別賞を受賞	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
2	2022.01.06	令和３年度日本水産学会中部支部大会において本校学生３名が最優秀発表賞を受賞	制御情報工学科	
3	2022.01.06	全国高専プログラミングコンテストで最優秀賞等を受賞した本校学生が三重県副知事に受賞報告	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
4	2021.12.21	鳥羽市長への全国高専プロコン、U-22プロコンの結果報告会を実施	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
5	2021.07.20	令和３年度インターハイ（少林寺拳法競技）に出場する本校学生が鳥羽市長を表敬訪問	少林寺拳法部	
6	2021.07.01	高専大会（バドミントン競技）にて男子個人３位、男子・女子団体準優勝	バドミントン部	
7	2021.07.01	高専大会（剣道競技）にて女子団体が準優勝	剣道部	
8	2021.06.24	「電波の日」東海総合通信局長表彰、高専ワイヤレスIoTコンテスト2020スマート水産大賞の表彰式を実施	制御情報工学科	
9	2021.06.22	本校学生２名が、「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム高校生コース第７期」に採択	商船学科	
10	2021.06.18	「高専ワイヤレスIoTコンテスト2021」に本校のアイデアが採択	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
11	2021.06.02	高専ワイヤレスIoTコンテスト2020で本校学生の作品がスマート水産大賞を受賞	制御情報工学科	
12	2021.05.21	ディープラーニングコンテスト2021出場メンバーが鳥羽市長を表敬訪問	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
13	2021.04.19	第２回全国高等専門学校DCONで本校学生の作品が２位獲得	制御情報工学科 情報機械システム工学科	

第１０回高校・高専観測機器コンテストにて特別賞を受賞！

令和３年１２月２０日（月）に開催された第１０回高校・高専気象観測機器コンテスト（オンライン形式）にて、本校学生の作品２件が特別賞を受賞いたしました。また、本校が当コンテストでの受賞回数が出場校の中で最多となったため、受賞回数最多賞も受賞いたしました。

高校・高専気象観測機器コンテストは、一般財団法人WNI気象文化創造センターが開催する高校・高専生を対象としたコンテストで、従来の発想にとらわれないアイデアによって気象観測機器を製作・検証し、その技量を競うものとなります。

今回のコンテストにおける本校学生の作品及び受賞内容は次のとおりとなります。

〇四季探偵AI-アイ- ～レンズ越しの植物観察～

選考委員特別賞佐々木嘉和賞（賞金５万円、米国研修旅行を予定）

【報告書】PDF　【動画】YouTube

（概要）

2021　年に種目・現象数が大幅に廃止・縮小された生物季節観測をカメラでの定点観測と画像検出AIで行い、観測の継続、さらには記録を行う。また本来肉眼で行われていた観測をIT化することにより労力の軽減を狙う。

〇クラウドくんとこよみちゃん～人間と動植物の季節カレンダーを作ろう～

選考委員特別賞衛星賞(賞金5 万円、衛星オペレーション見学会を予定)

【報告書】PDF　【動画】YouTube

（概要）

ユーザが提供する画像から生物季節のカレンダーを自動で作成、記録する。地域ごとに季節の行事や旬の食材等をユーザに紹介し、自然への保全意識を高めることを期待する。

〇小規模養殖業者のためのプランクトン計測システム

【報告書】PDF

【参考リンク】
大会結果一覧 PDF
オンライン表彰式 YouTube
コンテストHP https://www.wxbunka.com/contest/

校舎に掲示した受賞を祝う懸垂幕

令和３年度日本水産学会中部支部大会において本校学生３名が最優秀発表賞を受賞！

令和３年１２月４日（土）に開催された令和３年度日本水産学会中部支部大会（オンライン形式）において、本校学生３名それぞれが最優秀発表賞を受賞いたしました。学生たちが発表した研究タイトルは次のとおりです。

○「ブリを対象とした機械学習を用いた活性判定による自動給餌」
○「マダイを対象とした画像処理・機械学習を用いた活性判定による自動給餌」
○「機械学習を用いた食害検出と潮位予測による海苔養殖支援」

受賞学生３名と和泉校長

全国高等専門学校プログラミングコンテストで最優秀賞等を受賞した本校学生が三重県副知事に受賞報告を行いました

令和３年１２月２０日（月）、第32回全国高等専門学校プログラミングコンテスト及びＵ-22プログラミング・コンテスト2021で最優秀賞等を受賞した本校学生が、廣田恵子副知事へ受賞報告を行いました。受賞作品については次のとおりです。

第32回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

○最優秀賞『学魚(がくぎょう)養殖(ようしょく)－遠隔で養殖について学び、地域産業を体験し理解するー』
作品の概要：
三重県南部で盛んなマダイ養殖を対象に、遠隔から小中学生が給餌体験、魚体サイズ測定、へい死発見などをお手伝いするアプリ。

○優秀賞『SEN-KEN』
作品の概要：
バレーボールやバトミントンのコース予測問題をクイズ形式で解くことで、レシーバーのコース予測能力の向上などのスポーツ技術向上を支援するアプリ。

Ｕ-22プログラミング・コンテスト2021

○スポンサー企業賞『よそくる』
既存の観光統計情報における課題から、正確な観光統計データの取得とそれに伴う観光業界への支援を目的に開発。車のナンバープレート認証を利用した交通量調査をもとに、一般的な観光基礎データ（曜日、天気、コロナ感染者数）などから来訪者数をディープラーニング予測、Webサイトで来訪者情報を可視化するアプリ。

廣田副知事（後列中央）と受賞学生及び指導教員ら

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

鳥羽市長への全国高専プロコン、U-22プロコンの結果報告会を実施

令和３年１１月２２日（月）、第３２回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（以下「全国高専プロコン」という）及びU-22プログラミング・コンテスト2021（以下「U-22プロコン」という）に参加した学生たちが、鳥羽市長へ結果報告会を行いました。

報告会では、全国高専プロコンで本校初となる最優秀賞・優秀賞のダブル受賞を達成したこと、U-22プロコンで最終選考に高専で唯一選ばれ、スポンサー企業賞（ピーエスシー賞）を受賞したことの報告と、それぞれが制作したアプリについて、鳥羽市長へプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションでは、制作したアプリの内容に関係する部署の市職員も参加し、活発な意見交換が行われました。

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

鳥羽市長と全国高専プロコン、U-22プロコンで受賞した学生たち

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

令和３年度インターハイ（少林寺拳法競技）に出場する本校学生が鳥羽市長を表敬訪問しました

令和３年７月１９日（月）、令和３年度全国高等学校総合体育大会に出場する選手の壮行会が鳥羽市役所で催され、本校からは少林寺拳法競技に出場する学生７名が鳥羽市長を表敬訪問しました。選手たちが大会への抱負を述べた後、鳥羽市長及び鳥羽市教育長からそれぞれ激励のことばが送られました。

高専大会（バドミントン競技）にて男子個人３位、男子・女子団体準優勝！

令和３年６月２６日（土）・２７日（日）に開催された第５９回東海地区国立高等専門学校体育大会（バドミントン競技）にて、鳥羽商船高専が男子個人戦で３位、男子団体戦・女子団体戦にて準優勝いたしました！

沼津、豊田、岐阜、鈴鹿、鳥羽の５高専で開催される地区体育大会は、昭和３８年に豊田高専を会場に第１回大会が開催されて以来、活発な活動を続け、今年で第５９回目となります。
他の開催競技については、以下のリンクよりご覧ください。
第５９回東海地区国立高等専門学校体育大会

高専大会（剣道競技）にて女子団体が準優勝！

令和３年６月２６日（土）・２７日（日）に開催された第５９回東海地区国立高等専門学校体育大会（剣道競技）にて、鳥羽商船高専が**女子団体にて準優勝**いたしました！

沼津、豊田、岐阜、鈴鹿、鳥羽の５高専で開催される地区体育大会は、昭和３８年に豊田高専を会場に第１回大会が開催されて以来、活発な活動を続け、今年で第５９回目となります。
他の開催競技については、以下のリンクよりご覧ください。

第５９回東海地区国立高等専門学校体育大会

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

「電波の日」東海総合通信局長表彰、高専ワイヤレスIoTコンテスト2020スマート水産大賞の表彰式を実施

令和３年６月２４日（木）、「電波の日」東海総合通信局長表彰及び高専ワイヤレスIoTコンテスト2020スマート水産大賞の表彰式を実施いたしました。

「電波の日」東海総合通信局長表彰は、「電波の日」（6/1）にあたり電波利用や情報通信の発展に貢献した個人及び団体に対して総務省東海総合通信局より表彰が行われるもので、本校の高専ワイヤレスIoTコンテストへの参加等を通じた次世代を担う電波・IoTの若手研究者の育成と、電波利用の発展・IoT技術開発の研究の裾野を広げる取り組みが評価され、今年度表彰されることとなりました。

また、地域に密接しつつ高度な技術者を育成している高等専門学校で育まれている学生の技術力や独創的なアイデアを、地域におけるワイヤレスIoT及び5Gを含めた電波事業の新たなサービスに繋げていくことを目的に開催された「高専ワイヤレスIoTコンテスト2020」（総務省主催）において、本校から出場した学生チームが「漁業者と連携したAIを活用した伊勢湾の藻場の可視化・保全」というテーマで、スマート水産大賞を受賞したため、「電波の日」東海総合通信局長表彰とともに表彰されることとなりました。

表彰式では、大石　無線通信部長（東海総合通信局）より、「電波の日」東海総合通信局長表彰を和泉校長へ、高専ワイヤレスIoTコンテスト2020スマート水産大賞をチーム代表の制御情報工学科５年の髙木晃太さんへそれぞれ授与されました。

（前列左）和泉校長、（前列中央）制御情報工学科５年　髙木学生、（前列右）東海総合通信局　大石無線通信部長
（後列左）情報機械システム工学科　中古賀助教、（後列中央）情報機械システム工学科　江崎教授、（後列右）東海総合通信局　蟹 電波利用企画課長

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

本校学生２名が、「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム高校生コース第７期」に採択されました！

この度、本校商船学科の学生２名が「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム高校生コース第７期」に採択され、それぞれアメリカ(ハワイ)とフィリピンへ留学する予定となりました。

現在学生たちは、自身の留学計画をブラッシュアップすると共に、「トビタテ！留学JAPAN」事務局が開催した壮行会等に参加し、他校の採択された学生たちとのコミュニケーションを通じて、留学に向けた準備を行っています。

「トビタテ！留学JAPAN」は、意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す機運の醸成を図るために、2013年10月より文部科学省が開始した給付型奨学金制度です。
本奨学金制度は、政府だけでなく民間企業などからの支援や寄付により若者の留学を支援し、官民協働で「グローバル人材育成コミュニティ」を形成し、将来世界で活躍できるグローバル人材の育成を目的としています。

「高専ワイヤレスIoTコンテスト2021」に本校のアイデアが採択されました

総務省は、全国の高等専門学校の学生を対象に、第5世代移動通信システム（5G）及びワイヤレスIoTの関連技術を活用することによって、地域課題の解決や新たなサービス創出を図るアイデアを公募した「高専ワイヤレスIoTコンテスト2021」を行い、本校のアイデアが採択されました。

東海総合通信局ホームページ

https://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/kohosiryo/2021/0618.html

総務省ホームページ

https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban09_02000409.html

「高専ワイヤレスIoTコンテスト」ホームページ

https://kosen-iot-contest.jp/

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

高専ワイヤレスIoTコンテスト2020で本校学生の作品がスマート水産大賞を受賞！

総務省主催の「高専ワイヤレスIoTコンテスト」は、地域に密接しつつ高度な技術者を育成している高等専門学校で育まれている学生の技術力や独創的なアイデアを、地域におけるワイヤレスIoT及び5Gを含めた電波事業の新たなサービスに繋げていくことを目的に開催されています。2020年度の当該コンテストにおいて、本校から出場した学生チームが「漁業者と連携したAIを活用した伊勢湾の藻場の可視化・保全」というテーマで、スマート水産大賞を受賞いたしました。

コンテストの詳細については、以下のコンテスト公式ホームページより、ご確認いただけます。

https://kosen-iot-contest.jp/2020/result.html

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

ディープラーニングコンテスト2021出場メンバーが鳥羽市長を表敬訪問しました

第２回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2021に出場した本校学生6名が、鳥羽市長を表敬訪問し、今回の結果を報告しました。

第２位を受賞した作品「NoRIoT」（ディープラーニングによる海苔養殖支援システム）について、本校学生がプレゼンテーションを交え、鳥羽市長に紹介を行いました。

鳥羽市長より、今回の労いとともに、次回に向けて期待の言葉をいただき、有意義なひとときとなりました。

【大会公式ホームページ】

https://dcon.ai/2021/

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

第２回全国高等専門学校DCONで本校学生の作品が２位獲得！

第２回全国高等専門学校DCON（Deep Learning Contest）は、高等専門学校生が日頃培った「ものづくりの技術」と「ディープラーニング」を活用した作品を制作し、その作品によって生み出される「事業性」を企業評価額で競うコンテストです。

コンテストは２回の予選と本選から構成されており、４０作品が予選に応募し、本校から出場していたezaki-labが提案した「NoRIoT」が企業評価額５億、投資額１億の評価をいただき第２位となりました。

応募作品「NoRIoT」は、三重県で盛んな海苔養殖の支援をする仕組みで、地元企業と共同開発した海洋観測機を用いて、各養殖場の最適な海苔網高さの提案やカモや魚による食害被害の低減を実現するものです。

【大会公式ホームページ】
https://dcon.ai/

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議規則

制　　定　平成１７年　６月２２日
最終改正　令和　２年　４月２１日

（目的）

第１条　この規則は、鳥羽商船高等専門学校（以下「本校」という。）に置かれる運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）の組織及び運営の方法を定めることを目的とする。

（組織）

第２条　諮問会議の委員は、商船高等専門学校に関し識見が高く、地域、産業、教育等の実情に通じ、かつ本校の充実発展に関心と理解のある学外有識者等で、次の各号に掲げる者のうちから、若干人を校長が依嘱する。

(1)　本校の卒業生を雇用している企業等の関係者
(2)　工学、商船学及び教育学分野で高い水準にある研究者及びその他の教育研究機関の職員
(3)　本校が所在する地域の関係者
(4)　本校の支援団体等の関係者

２　諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

（会議の運営）

第３条　諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

２　議長は、諮問会議を招集し、会務を総括する。

３　諮問会議は、少なくとも年１回開催するものとする。

（審議事項）

第４条　諮問会議は、次の各号に掲げる校長からの諮問事項について審議し、及び校長に対して助言を行う。

(1)　本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
(2)　本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
(3)　本校の教育研究活動等の状況について本校が行う点検及び評価に関する重要事項
(4)　その他、本校の運営に関する重要事項

（委員の任期）

第５条　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

２　前項の委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（事務）

第６条　諮問会議の事務は、総務課企画・地域連携係において処理する。

（雑則）

第７条　この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が定める。

附　則

この規則は、平成１７年７月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２１年４月２１日から施行し、平成２１年４月１日から適用する。

附　則

この規則は、平成２５年１０月１日から施行する。

附　則

この規則は、令和２年４月２１日から施行し、令和２年４月１日から適用する。

国立高専機構鳥羽商船高専の取り組み

□国際・国内情勢を踏まえた優秀な海事人材・海技者の育成

□商船学科、情報機械システム工学科、専攻科の教育の質保証

□学生支援、修学支援

□奨学後援会、同窓会、連携協力会との協働

□ブランディング

鳥羽商船高専における学校経営・課題対応図（鳥羽校長から法人理事長に提出）2021-8-6

各高専の課題

1．校内施設・環境整備と練習船代船建造
2．教育の質の向上と教職員の採用・配置
3．情報セキュリティと入試等広報活動の持続的強化
4．就学支援体制の強化
5．男女共同参画とキャリア支援の強化
6．外部資金による研究力の向上と教育への還元

中長期的要因

1．**国際/女子学生部屋の不足、学生募集に影響、県内15歳人口の減少**
2．担任をもつことに対する教員意識の変革要、教育研究等活動の評価法改善要
3．教職員の学生指導や保護者への対応をはじめとする日常業務の負荷増
4．担任と各主事室との情報共有の一層の充実、学生や保護者への
「誰一人取り残さない」教育の質保証と提供が求められている
5．女性教員や学生の確保、学科ごと担任ごとの就職支援の改善、
入学から就職まで、卒業後まで学科・学年通貫のキャリア支援が必要、
海事・物流産業の変革期
6．海事、水産、海洋分野におけるＤＸの推進に貢献する情報・機械
システムの教育研究の始動と教育への還元、BYODの完成充実へ

短期的要因

【令和２年度から現時点までのコロナ禍】
1．感染症の対応による遠隔授業の導入
2．課外活動を含む学校活動の量的低下、設備、リスク、種目離れ
3．保護者と学生の将来への不安
4．**寮生生活、通学生の家庭を含むトータルセキュリティ**
5．勉学その他活動環境の確保（寮内Wi-Fiや課外活動の場所など）
6．寮務や事務部門等にわたる残業慢性化
7．新学科学年進行と専攻科カリキュラム
8．グローバル教育推進における海外派遣と留学生の滞留

学校の強み・考えられる対応「ＡＬＬ鳥羽」で取り組むべき課題

人づくりを通じて海づくり、海事、情報と機械の次世代産業と地域経済に貢献する
マリンリゾート・コアキャンパス

誰一人取り残さない-SDGsに貢献するマリン・キャンパス
練習船、寮や課外活動等の施設整備をコアとする学生と地域が共生する「鳥羽商船モデル」

NIT-TOBA COLLEGEとして海のシリコンバレー構想と共創
地域社会に溶け込むキャンパスタウンデザイン、地域デザインの工学を擁する大学等との連携

教職協働を通じたALL鳥羽コア人材のスキルアップ、複数担任など学年通貫の学生支援

□**連携協力会（仮称）の創設**、同窓会・産業界との**産学官金連携強化**と海洋ロボット整備産業などの地域共創による資金力Up
□**魅力ある２学科・専攻科体制**と学科横断のコースなどの検討
□**学生は寮とキャンパスをコアとして街に住む。女子学生の増加と進路支援を含めた学校対応**
□**土地の有効利用**
□**教育力と研究力の強化と教育研究や課外活動の適切な評価**
□**情報セキュリティ**とポータルサイトによる保護者からも「見える」環境構築　**小中学生への海やICT、DXへのいざない**、中学校訪問から就職支援まで、入口から出口まで生涯キャリア支援
□**練習船代船建造、桟橋架け替え、船舶運航センター創設（仮称）**、バーチャル・**グローバルキャンパス**-内外高等教育機関と連携強化

少子化・
過疎高齢化

5年/5.5年一貫教育、競争力ある産業人材
海事・海運、海洋DX
操船支援・港内管理
にローカル５Ｇを活用

海事人材の育成
40/200

気候変動＆SDGs

県・市との連携

情報機械システム
ICT・IoT
PBL
（地域課題学習）

ICT・IoT
小中連携

三重県・
中南部、地域共生

同窓会、連携協力会

災害支援機能を備えた
練習船「鳥羽丸代船」

施設・環境整備委員会に
キャンパスマスタープラン（CMP22）、
浮き桟橋・艇庫地区、
国際寮の３WGを設置

防減災・備災施設整備とBCP

持続可能な教育の質の向上
質保証を支える安全安心を

中部-太平洋
沿岸域（外洋）
海抜２m-17 m

学生支援
修学支援
キャリア支援

暁寮地区施設整備
混住型国際寮他
留学生倍増計画

我が国の海事産業とSociety 5.0の成熟社会に貢献

学校の強靭化のために

1．練習船仕様（災害支援機能等）
浮桟橋・艇庫機能

2．校内防減備災、災害時の強靭性
海抜高度の高い寮地区の充実整備

3．情報倫理とサイバーセキュリティ
DX人材育成のBYODセキュリティ
アプライアンス

4．学習環境、労働環境、地域共創
県、市、高等教育機関等と連携

国立高専機構鳥羽商船高専の取り組み

□令和新時代高専の機能高度化プロジェクト（文科R1-R6）

□国立高専機構施設整備５か年計画（R3-R7）

□教育の質保証、特色の形成、国際化・情報化

ブランディング

海洋・海事産業を対象とした全校でのPBL実践によるDX推進人材の育成

教学マネジメント体制	Ⅰ ３つの方針を通じた学修目標の具体化 運営委員会で決定、運営諮問会議での評価 Ⅱ 授業科目・教育課程の編成・実施 各学科の教員団で編成・実施、主体的・対話的で深い学び Ⅲ 学修成果・教育効果の把握・可視化 効果検証、ポートフォリオ活用で個別最適な学び PLAN（運営委員会） ACTION（学科）　DO（教員団） CHECK（教務委員会・外部評価）
取組の具体的内容	養成する人材像 ・商船学科：デジタル情報を活用し海事・港湾管理分野のDXを活用する人材 ・情報機械システム工学科：対象とする産業構造を理解しDXを実装できる人材 ・専攻科：複合的視点を持って高度な技術・知識を活用したDXを推進できる人材 商船学科・情報機械システム工学科・専攻科で協働的な学び実践 ① 海洋・海事分野におけるDX推進のために提案、実装、運用を全校的にPBLとして実施 ② 商船学科はデジタル活用、推進を通じて、海事産業におけるDXを牽引する人材となる機会を創出 ③ 情報機械システム工学科は、海洋・海事分野での実践を通じて卒業後に工業生産分野等で働く技術者としてDX推進できる人材となる機会を創出 練習船「鳥羽丸」 実績 ・デジタル化された鳥羽丸新造 ・海洋観測機の独自開発・販売 機器導入と活用 ・ 練習船鳥羽丸の各種データ収集・可視化システム構築 ・ 実データ連動型の操船シミュレータと内燃機関制御 ・ 遠隔制御・自動操船実験装置 ・ デジタルファブリケーション ・ データ分析・人工知能構築クラウドプラットフォーム
産業界との連携	鳥羽市、三重県工業研究所、伊勢市産業支援センター、KDDI・KDDI総研、中電CTIとの包括連携協定締結 鳥羽商船高専連携協力会を基盤に連携活動実施、金融機関とも連携した新規事業創出プロジェクトも推進
取組の優位性	海のシリコンバレー構想提唱（鳥羽市中村市長）船と海に関する勉強をしたい学生には絶好のロケーション 商船学科（使う側）と情報機械システム工学科（作る側）の両方を備える学科構成
取組の達成目標及び検証	DX関連産業への就職率１０％増加、DX関連共同研究実施件数５件／年 学外コンテスト出展　２０件／年、　受賞実績で日本一を実現

産業界等のＤＸの動向や連携の在り方

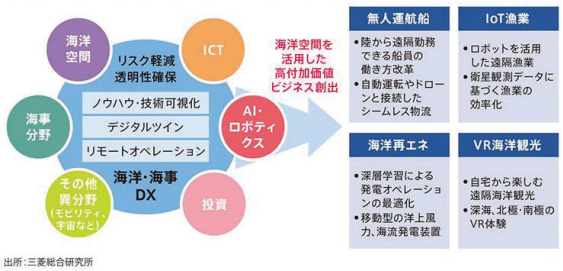
海洋・海事DXの動向

- 20兆円市場の海洋・海事分野で今後はDXが進む。
- 海洋空間を活用したオープンイノベーションを起こすチャンスも拡大。
- コロナ禍を契機に新たな海洋・海事ビジョンを示し世界をリード。

↓

DX進展に伴いノウハウや技術の可視化・オープン化が進めば、海洋空間や船舶など海上構造物を活用した新たな高付加価値サービスの創出が必須。
高専ならではの１５歳からの専門教育でスペシャリスト養成が可能。

［図］海洋・海事DXによるオープンイノベーション創出および新たな海洋サービスの例



出所：三菱総合研究所

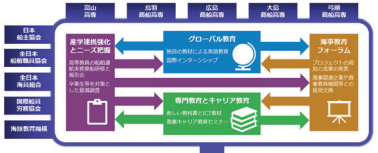
https://www.mri.co.jp/knowledge/mreview/202008-1.html

海洋DX、海事人材育成プロジェクトを牽引

- 海洋DXに関する包括連携（KDDI、三重大、三重県など）
- 海事人材育成実証（５商船高専、全船協、船主協会など）

三重県における海洋DX研究開発・導入の促進に係る産学官連携

https://www.kddi-research.jp/newsrelease/2021/031601.html



https://www.nc-toyama.ac.jp/project/met-ng/

英語力強化

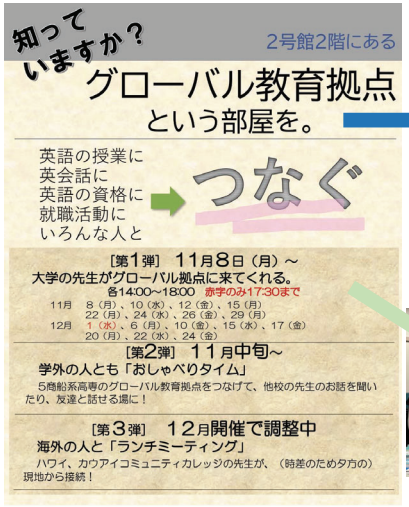
英語導入教育

グローバル教育拠点

5商船系高専とテレビ会議

KCC（ハワイ）とランチミーティング

英語力強化



スケジュールなど詳しくは、グローバル拠点の前をチェック！

英語導入教育
教室

鳥羽商船高専

TOEIC対策
グローバル教育拠点

＋大学の英語教員

テレビ会議システムの利用

学外の人と英会話

＋５商船系高専との英語交流

ランチミーティング
KCC@ハワイ
（カウアイコミュニティカレッジ）

＋海外とリアルタイム英語交流

1.学生会制作鳥羽丸実習　　2.スマホで餌やり

ご清聴ありがとうございました。

独立行政法人　国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校の概要
（現状と課題）

2022年3月7日

本日の報告内容

- ●本校の概要
- ●入学から卒業まで
- ●3つの支援室
- ●教育の質の向上と地域連携など
- ●学生支援と生活支援
- ●研究活動と学生の活躍

1．鳥羽商船高専の概要

国立高等専門学校
全国で51校（55キャンパス）

商船学科のある高専は5校のみ

独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校

National Institute of Technology, Toba College

○ 教育理念・教育目標

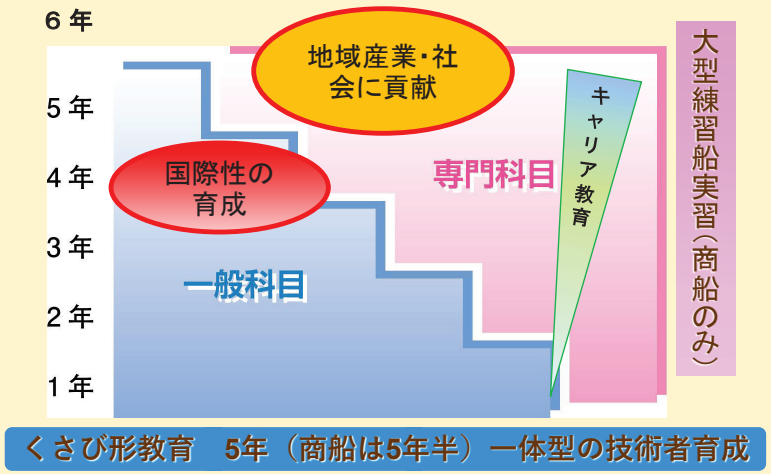
□教育理念

進取・礼譲・質実剛健

□教育目標

1. 人間性豊かな教養人となること
2. 創造性豊かな技術者となること
3. 国際性豊かな社会人となること

○ 高専教育システム（本科）の特徴



○ 本校のセールスポイント（他高専と比較して）

伝　　統

- 創立以来、長い歴史と伝統を持つ
- 同窓会活動が充実しており、卒業しても強い味方

立地条件

- 伊勢志摩国立公園の中にある
- 交通の便が（他の4商船系高専と比較して）相対的に良い

進　　路

- 進学・就職先は他の高専と同様で良好

○ 本校の教職員 （2022.3.1 現在）

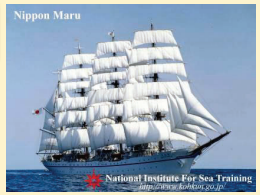
教育職員					事務職員等			合計
校長	教授	准教授	講師	助教	部課長	係長等	一般職員等	
1	24	21 うち2は海事職	1	7 うち1は海事職	3	10	29 うち5は海事職	96
54 うち3は海事職					42 うち5は海事職			

○ 商船学科（定員40名）

第3学年からコースが分かれます（5年半在学）

- 航海コース ：航海士、船長をめざします
- 機関コース ：機関士、機関長をめざします

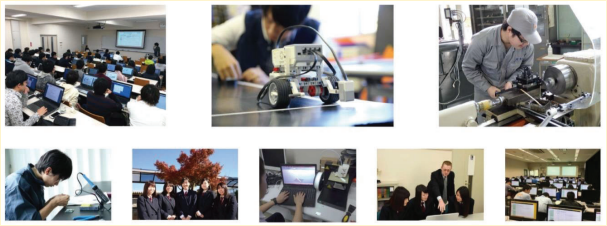
海上のプロフェッショナル



合計12月の大型練習船実習

○ 情報機械システム工学科（定員80名）

「電子機械工学科」と「制御情報工学科」を統合して、2019年4月設置（今年度は1～3年が在籍）

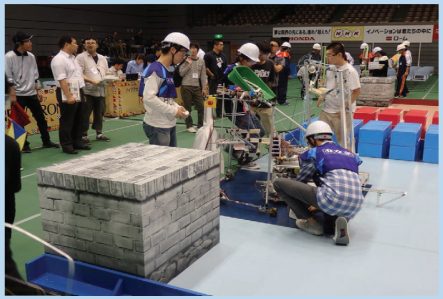


情報・機械・電気電子工学をベースに、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者をめざします。

2019年4月より「情報機械制御工学科」に統合（今年度は4年・5年が在籍）

○ 電子機械工学科（40名）

機械工学と電気・電子工学の両方の専門知識で活躍



ロボットを作る・動かす

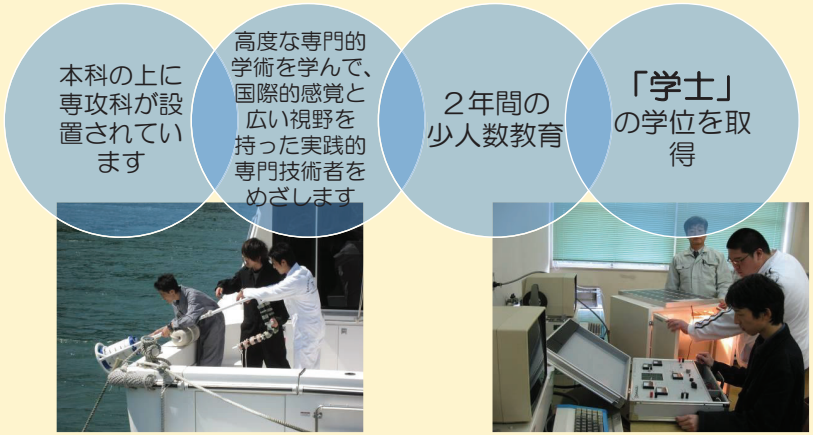
○ 制御情報工学科（40名）

情報処理と自動制御技術で活躍

AI、IoTでコンピュータ社会に対応

○　専攻科

海事システム学専攻(定員4)	生産システム工学専攻(定員8)
・商船学科などから進学	・電子機械工学科・制御情報工学科などから進学



2021年度　本校における新型コロナウィルス感染拡大の影響

- 対面を含む全授業で教員がPCを使いスクリーン表示で授業を実施。授業を配信、録画した。(オンライン体制の維持)
- 前期(5月～6月)、および後期(1月～2月)の授業を遠隔(オンライン)で行なった。後期は学生が登校・在宅を選択できた。
- 学生が参加する従来の集合形式の行事が無くなり、殆どがオンライン開催となった。(前年度中止になった諸行事がオンラインで実施)
- 教職員の会議・研修の多くがオンラインで実施されるようになった。

：　　：

⇒　上の状況が本年度の報告内容に反映されている。

2. 入学から卒業まで

学生募集・PR活動

- 春季学生募集巡回PR（6～7月）

  中学校に訪問してPRを実施

  県内中学校　142校

  ＜昨年度　メールによる資料送付　県内147校、県外100校＞

- 秋季学生募集巡回PR（10～11月）

  中学校に訪問してPRを実施

  県内中学校　131校

  県外中学校　90校

  ＜昨年度　中学校訪問　県内147校＞

オープンキャンパス

参加人数を制限し、

２年ぶりに対面で実施。

鳥羽商船高専 オープンキャンパス 2021

鳥羽商船高専ってどんな学校？　どんな勉強をするの？　高校との違いは？

中学生のみなさんの疑問にお答えします。
学校内を見学いただける機会となります。
お気軽にご参加ください。

3日間、午前の部、午後の部ともに同一内容となります。

開催日時
令和３年８月　９日（月）午前の部、午後の部
令和３年８月１０日（火）午前の部、午後の部
令和３年１０月２日（土）午前の部、午後の部

当日のスケジュール

受　付 (午前の部) 9:30～10:00 (午後の部) 13:00～13:30	受付場所・・・情報メディア教育センター１階	
全体説明 (午前の部) 10:00～10:30 (午後の部) 13:30～14:00	全体説明会場・・・（生徒のみ）情報メディア教育センター１階　メディアホール 高等専門学校について、学習内容と卒業後の進路、学校生活、一般教育などについて説明します。 ※先生、保護者等については、別室で説明を聞いていただく予定です。	
校内見学 (午前の部) 10:30～12:00 (午後の部) 14:00～15:30	商　船　学　科	情報機械システム工学科
	グループに分かれ、校内施設を見学します。（見学は生徒のみ、保護者等は動画で見学している様子を見ていただく形になります。）	グループに分かれ、校内施設を見学します。
学寮説明会 (午前の部、午後の部 校内見学終了後 45 分程度)	学寮説明会を実施します。参加希望者は事前に申し込みしてください。時期により実施方法が異なる可能性があります。	
終了後、校内の自由見学が可能です。ただし、校舎等建物内への立入はご遠慮願います。		

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、変更となる場合があります。

参加について
＊ 参加対象者は中学生（1～3年生）です。
＊ 先生、保護者等の参加について、生徒１名につき１名までです。
＊ 上履きは必要ありません。

申込み方法
「オープンキャンパス参加申込書」が在学中の中学校にない方は、以下①、②いずれかの方法で第１希望から第３希望まで記入のうえ、お申込みいただきますようお願いいたします。また、学寮説明会参加をご希望の方につきましても、合わせてお申込みいただきますようお願いいたします。
① 本校ホームページ内の申込みフォーム
② 本校ホームページ内の参加申込書をダウンロードのうえ、ＦＡＸまたはメールで返信
以下URLより内容をご確認のうえ、お申込みください。
https://www.toba-cmt.ac.jp/nyuugaku/opencampus/

申込締切：令和３年７月１６日（金）

※　特定の参加日時に多数お申込みがある場合には、ご希望に添えない場合があるので、ご了承ください。
また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、開催が中止となり得る場合があります。
（裏面もお読みください。）

新型コロナウイルス感染症に対応した学生募集

- Web学校説明会（7月・10月）　58組

  中学校教員、生徒及び保護者向けにオンラインで本校の概要、入学試験について説明会を実施

- Web入試相談会（7月～11月）　17組

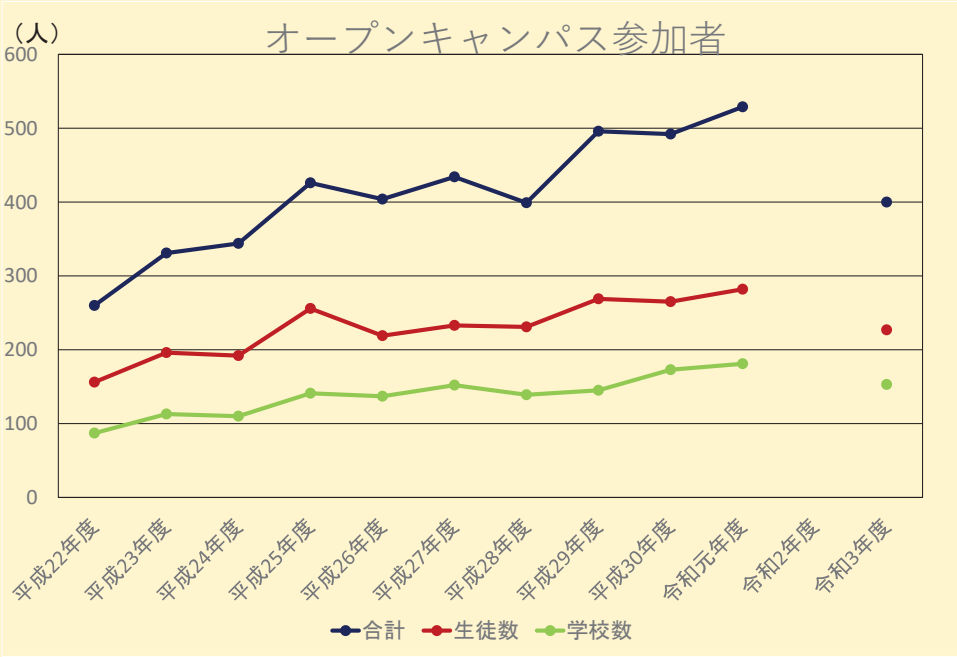
  生徒及び保護者向けにオンラインで本校教員が個別面談を実施

- 学科個別の相談会（10月～11月）

  学科ごとに少人数・少グループでの学校見学会を実施

  商船学科　練習船体験乗船　37組

  情報機械システム工学科　学校見学　20組



令和2年度は対面でのオープンキャンパスは中止。

実施及び参加した説明会等

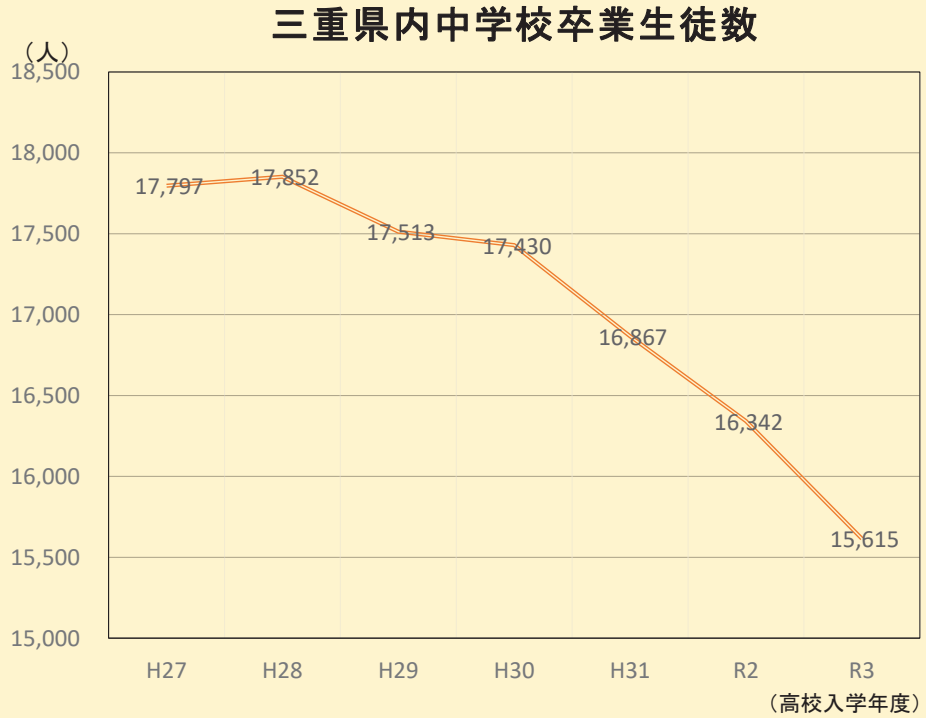
・中学校主催「進路説明会」(6～11月)　19校<18校>
・高専機構主催「国公立私立合同説明会」
（6月 東京、7月 大阪）
・公開講座「サイテクランドin鳥羽商船高専」（7～8月）
・商船系高専5校合同進学ガイダンス（オンライン）（8月）
・ NPO法人故郷の海を愛する会 主催事業の協賛(8月）
・学習塾対象学校説明会(10月)　10名<9名>
・受験相談会(12月)　26名<23名>
・高専機構主催「高専未設置県での合同説明会」
（12月 埼玉、神奈川、山梨）

＜　＞は昨年度

実施及び参加できなかった説明会等

- 鳥羽丸PR航海(四日市港、名古屋港)
- 海学祭での入試説明会
- 学力検査選抜直前入試説明会

入学志願者



本校の入試制度（H31から変更）

1.推薦選抜

①特別**推薦**

出願資格：2・3年生の評定の総計が72以上、かつ2・3年生の全科目3以上
出願書類：志望理由書、校長推薦書
選抜方法：書類選考、面接

②一般**推薦**

出願資格：2・3年生の評定の総計が62以上、かつ2・3年生の全科目3以上
出願書類：志望理由書、校長推薦書
選抜方法：書類選考、作文、面接

2.体験学習選抜（商船学科のみ）

出願資格：2・3年生の全科目3以上

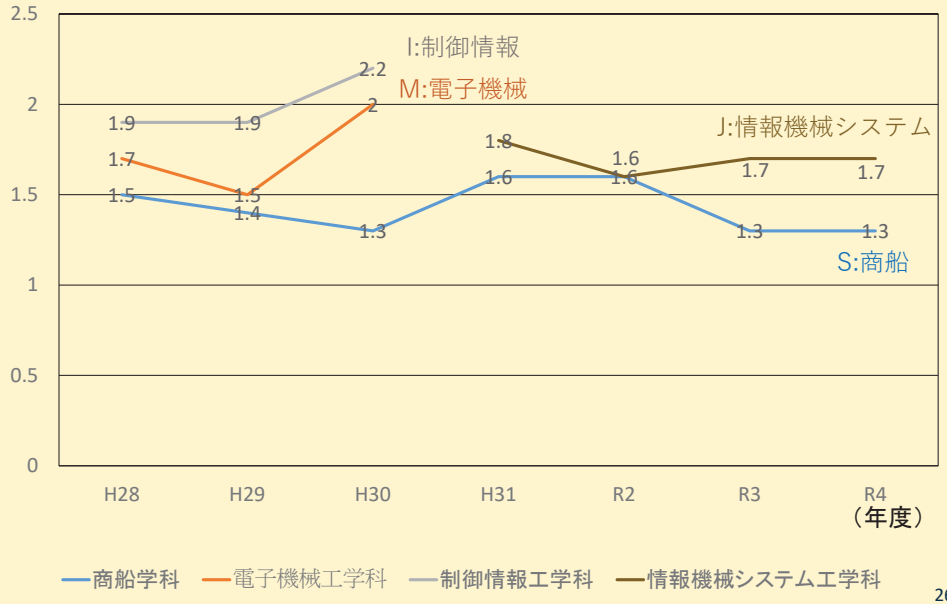
3.学力検査選抜

従来通り

（旧制度）
1.推薦：1～3年生の合計96以上
2.体験：全学科、1～3年生の合計81以上が望ましい（主要5科目は全て3以上）

推薦と体験で定員の85%確保

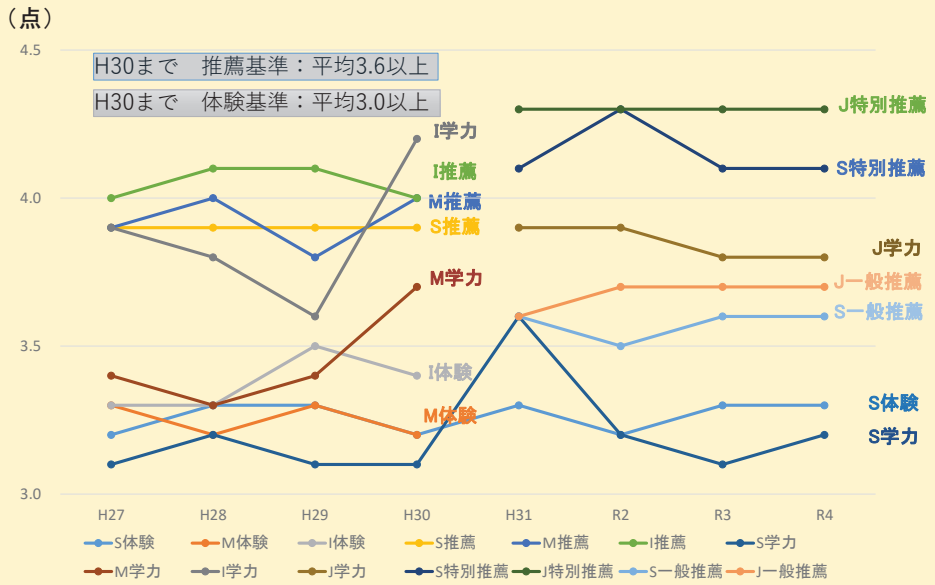
志願者倍率

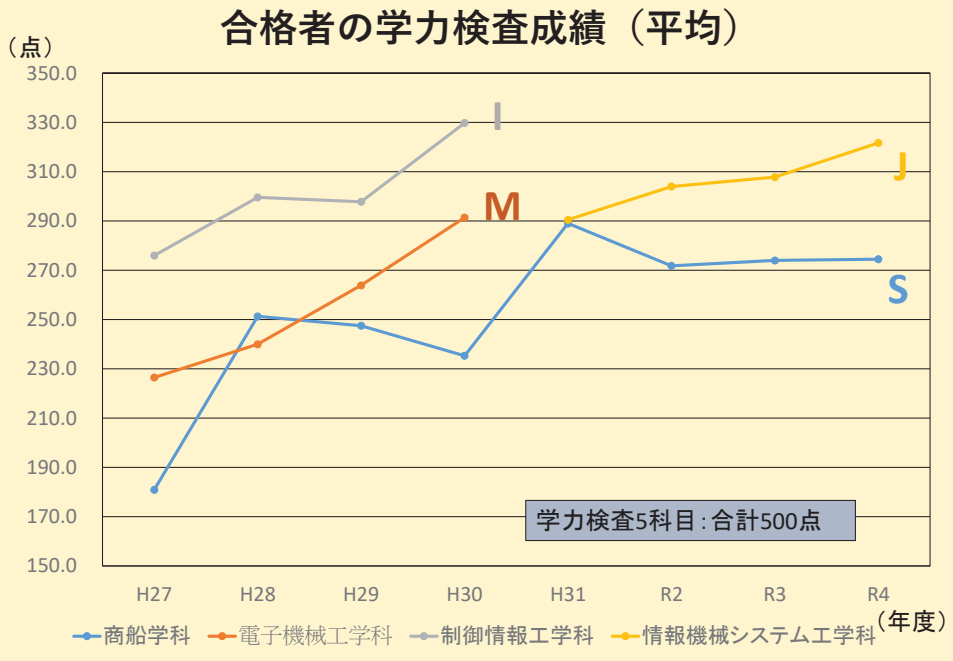


合格者の学力

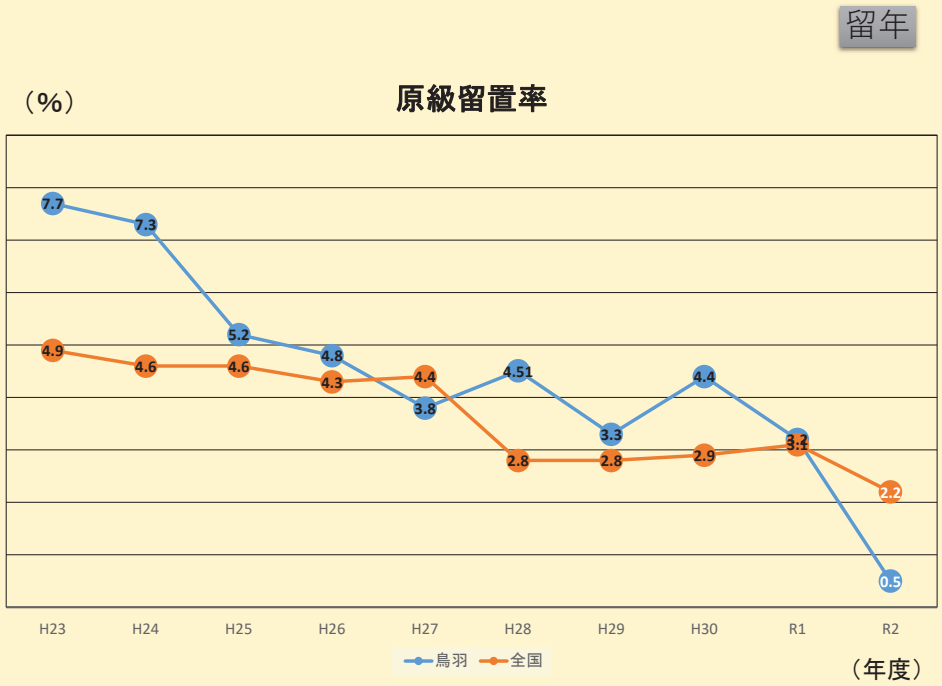
合格者の調査書評定平均

特別推薦：2,3年生で平均4以上
一般推薦：2,3年生で平均3.4以上

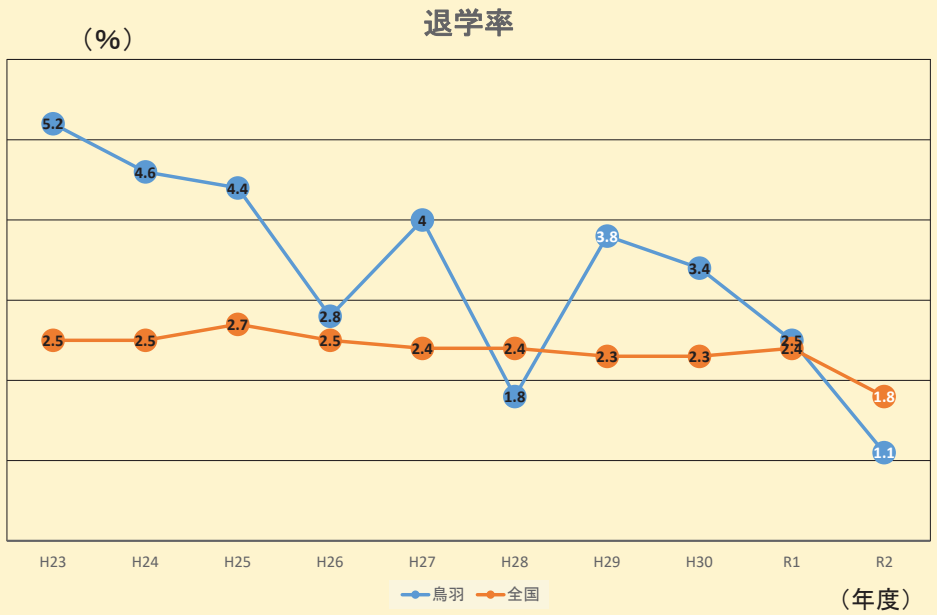



合格者の学力検査成績（平均）
（点）
350.0
330.0
310.0
290.0
270.0
250.0
230.0
210.0
190.0
170.0
150.0
H27
H28
H29
H30
H31
R2
R3
R4
（年度）
I
M
J
S
学力検査5科目：合計500点
商船学科
電子機械工学科
制御情報工学科
情報機械システム工学科

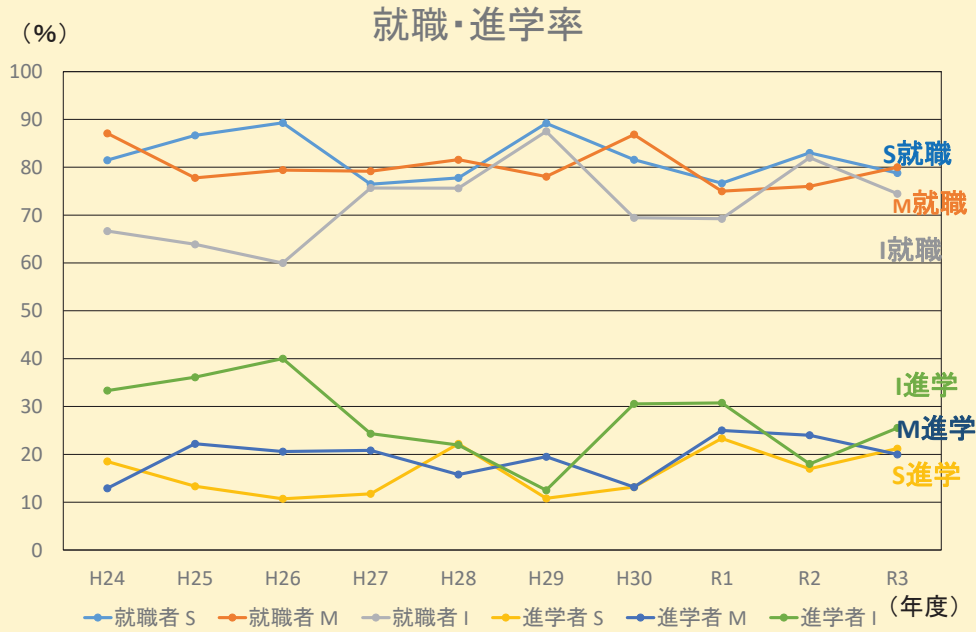
留　年


留年
（%）
原級留置率
7.7
7.3
5.2
4.8
3.8
4.51
3.3
4.4
3.1
0.5
4.9
4.6
4.6
4.3
4.4
2.8
2.8
2.9
3.1
2.2
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
H30
R1
R2
鳥羽
全国
（年度）

退　学



就職・進学



就職+進学率　ほぼ100％

3. 学生のための3つの支援室

学修推進支援室

(1) 学生の学力向上に関すること。
(2) 学生の学修を支援するために必要な方策の検討及び実施に関すること。
(3) 教育改善に関する調査・研究に関すること。
(4) 授業改善計画の立案、実施、評価及び再構築に関すること。
(5) 教員の資質向上に関すること。

キャリア教育推進室

(1) 本校におけるキャリア教育の設計、改善、実装に関すること。
(2) 学生のロードマップ（将来構想）に関すること。
(3) 就職及び進学に関する情報の収集及び提供に関すること。
(4) 就職のための指導と支援に関すること。

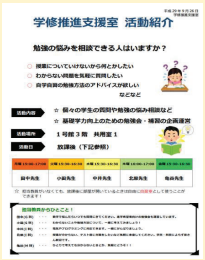
グローバル教育推進室

(1) 学生及び教職員の英語力向上に関すること。
(2) 国際交流プログラムに関すること。
(3) 学内におけるグローバル化推進に関すること。
(4) 留学生の受入れ及び指導に関すること。
(5) 海外の機関との交流及び連携協力に関すること。

学修推進支援室

令和３年度の活動

「基礎学力定着」
「原級留置率の低減」



学生の学力向上・学修支援

(1)「学修推進支援室」の運営

- 「学修推進支援室」として学生の自習の場を提供（平日1時間程度、支援室員(教員)もしくはチュータ（専攻科生）が常駐）
- 支援室は講義形式・グループ学習にも対応できるよう机・テーブルを配置
- 教科書・参考書および試験過去問題を学生が利用可能

(2) 要支援者の支援

- 単位不認定の恐れがある学生(要支援者)について室員が支援室常駐時間を用いてフォロー

(3) 低学年への数学・専門科目補習

- 全学科1年生について、「支援室補講」を設け、支援が必要な学生を抽出し数学（一部専門科目）の補講を行う

教員の資質向上

(1) 授業公開の実施

- 令和2年12月13日～17日の5日間実施（予備期間12/20-24）
  - ✓ 自他教員の授業見学を相互に見学することしで学校全体の授業の質の向上を図る
  - ✓ オンラインでの見学も可能な体制を整えた
  - ✓ 授業アンケートで評価の高い授業、AL(アクティブラーニング)を試みる授業の見学を推奨
  - ✓ 見学者は「見学記録・コメントシート」を記入し、授業担当教員へフィードバックとした（25枚のフィードバックが得られた）

(2) その他

- 第3ブロックAL推進研究会に参加し、他高専とも情報共有・連携を行う

キャリア教育推進室
（学生主事室連携）

グローバル教育推進室

キャリア教育支援

Web活用による学生・家庭・教職員・企業間の情報共有

授業カリキュラム

一般教育科
臨床心理士
外部講師
商船系・工業系学科
OB

支援事業

キャリア教育推進室（学生主事室）
学生生活係
人材広告企業（マイナビ他）
企業

社会人基礎力養成（1･2年生）
①一般基礎教育1･2
〔メンタルヘルス、スマホ、デートDV
コミュニケーションスキル、他〕

就職力養成（3～5年生）
①キャリアデザイン1･2･3
〔自己分析、企業分析、就活支援〕
②インターンシップ

実践力養成（3･4年生、専攻科）
①Web講座
〔適正検査、就活動向講座、面接講座〕
②Web校内就職支援セミナー
102社参加
③人材広告企業就職セミナー

学生
家庭（保護者）
教職員
企業

令和３年度　グローバル教育推進室事業
実施状況報告

No	事業名	担当	派遣先 / 実施場所	対象	実施日	参加人数	参加費用
1	MELキャンプ	鳥羽	シンガポール	全学科 1年生以上	中止	—	—
2	商船系高専とハワイ大学KCCとの国際交流プログラム	富山	オンライン	商船学科	2月～3月 （120分×3回）	9名 （5高専 計19名）	5千円
3	日タイ高校生ICTフェア	鳥羽	タイ	全学科 2、3年生	来年度に延期	—	—
4	SMA 鳥羽丸トレーニング	鳥羽	鳥羽商船高専	SMA学生 本校学生	中止	—	—
5	Toba SP Project	鳥羽	鳥羽商船高専	SP学生 本校学生	中止	—	—
6	TOEIC対策特別講座	鳥羽	鳥羽商船高専	全学科 3年生以上	1月 （6時間×3日）	15名	—
7	留学生実地研修旅行	鳥羽	志摩スペイン村	本校・鈴鹿高専 留学生、チューター	中止	—	—

令和３年度の活動

国際交流事業

(1)商船系高専とハワイ大学KCCとの国際交流プログラム

KCCの協力のもと、商船系高専が共同で行うプログラム
ハワイの歴史や文化、伝統的航海術の講義を受講しながら、
ハワイの学生と交流を深めることもできる

- ハワイでの開催、国内(宮崎県)での開催も検討したが、
  渡航が困難な状況のためオンラインで開催(Zoomを利用)
- 鳥羽から9名の学生が参加(1年生4名、3年生5名)

(2)トビタテ！留学JAPAN

文部科学省を中心として始まった官民協働の海外留学支援制度

- 高校生コースに2名の学生が採択され、
  準備を行っていたが、渡航が困難な状況
- 次年度分は募集無し
- 過去の採択実績
  H27年度: 地域人材コース(三重県) 1名 アメリカ
  H29年度: 高校生コース 4名 ニュージーランド、アメリカ
  H30年度: 大学生コース 1名 アメリカ

4. 教育の質の向上と地域貢献

令和３年度の活動

英語力強化事業

(1)TOEIC特別対策講座

外部講師に依頼した、3連休を利用した集中講座

- R4 1/7～1/9にオンライン開催
- 学生15名、教職員3名が自宅等から受講
- 過去の参加者数実績
  H29年度: 39名、H30年度: 35名、R1年度: 42名(対面)
  R2年度: 15名(オンライン)

(2)TOEIC IP、実用英検、技術英検(旧 工業英検)

毎年度それぞれ3回程度、学内で開催
実用英検は2級以下の一次試験準会場、技術英検は準会場

- TOEIC IP 受験者数
  6/5: 36名、11/23: 21名　　計57名
- 実用英検 受験者数 (※一次試験免除者、本会場受験者除く)
  5/29: 38名、10/9: 27名、1/23: 42名　　計107名
- 技術英検 希望者数 (※最少催行人数5名)
  6/12: 1名、11/14: 1名、1/22: 1名

学科改組

情報機械システム工学科

現在1年生～3年生が在籍

第4次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル

農林水産・観光業が盛んな三重県の抱える課題をPBLで解決し、地域貢献はもちろん、学生の技術向上を図り、知の拠点となる。

- 入学半年間の集中したプログラミング教育で論理的思考能力育成
- 機械・電気電子・情報・海事分野、将来活躍する分野での適用
- 学生の特性に合わせた多様な「Specialist・Generalist」教育システム

クラウド活用

害獣駆除　養殖支援　観光支援　海技活用

IoT　クラウド　AI
スマホアプリ　機械学習
3D CAD　3Dプリンタ
シミュレーション　組込みシステム

機械　電気電子　情報　海事

プログラミング教育

プログラミングを基盤としたカリキュラム

第４次産業革命
促進人材

地域産業
農林水産業
サービス業

企業など
製造業
情報通信業

協働PT

高専
社会実践体験
問題解決力

地域住民
理工系人材発掘
課題発見

観光応用

農業応用

地域に根ざした高専が御用聞きを担う
課題発見、自治体・企業連携のPBL実践

水産業応用

海運業応用

オーダメイド型カリキュラム

専門性ユニット　技術者としての専門分野の学習

データアナライズ	ビッグデータ解析、人工知能による認識処理などを実装できる技術者を育成します。
モバイルアプリケーション	スマートフォンやタブレット端末による各種アプリケーションを開発できる技術者を育成します。
スマートセンシング	身の回りにある情報を定量的に計測し、分析・可視化を行う技術者を育成します。
パワーエレクトロニクス	住宅や事務所向けの電力供給・管理システムの整備、保守を担う技術者を育成します。
エアロスペース	航空宇宙産業の製造現場で活躍するため、生産現場の管理運営能力を持つ技術者を育成します。
ロボティクス	生産を担うロボットの開発、設計、製作、制御、整備ができる技術者を育成します。

志向性ユニット　職種選択のための学習

開発・設計	開発・設計業務に携わるために必要な高度な理数系の知識を修得します。
生産技術	生産現場の取りまとめとして幅広く技術を理解し、各部門の要望をまとめる調整能力を培います。
顧客対応	電気機器やビルシステムの導入・保守運用をするための顧客との交渉力を養います。
ビジネス基礎	ビジネス的な視点を持つ技術者として活躍するために、経営・管理などを学びます。
国際性	グローバルな視野を持ち、英語を中心とした語学力の向上を進めます。

情報機械システム工学科・カリキュラム

5年 / 4年

オーダーメイドカリキュラム　応用フェーズ

専門性ユニット（1分野必須）：データアナライズ／アプリモバイルケーション／スマートセンシング／パワーエレクトロニクス／エアロスペース／ロボティクス

志向性ユニット（選択）：開発・設計／生産技術／顧客対応／ビジネス基礎／国際性

インターンシップ

3年 / 2年

専門共通基盤　基礎フェーズ

情報工学　電気電子工学　機械工学

1年

スタートアップ

工学基礎・プログラミング

一般教養

基礎学力養成

地域連携PBL

対象分野：農林水産／観光サービス／福祉医療／その他

実施項目：知的財産／技術者倫理／キャリアデザイン

国際交流プログラム

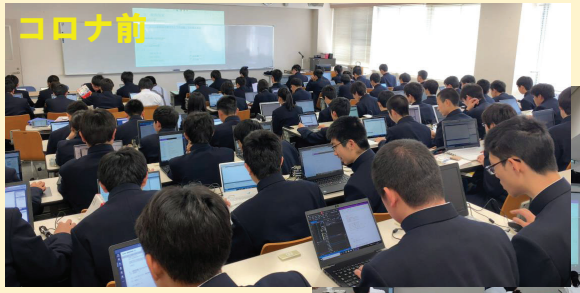
国際会議発表／国際論文投稿／専門研修／国際研修

電子会議システムによる遠隔授業の実施
および平常時での活用
（コロナ渦に係わる対応）

電子会議システムによる授業の実施（遠隔・通常授業）

- 遠隔授業で（登校する場合も全て）オンライン会議ツールを利用した授業実施
- 登校制限がかかった際でも迅速に対応可能（登校・自宅のハイブリッドも可）
- 常に録画することで欠席者への映像提供が可能で復習教材ともなる

分散授業の状況



昨年度は80名同時に1教室で授業実施

今年度は教室を分けて学内での分散するなど
3蜜を避けた授業実施

次世代の海洋人材の育成に関する事業

1　海事海洋分野の人材育成事業の実施

2　海事・海洋分野の魅力を伝える広報活動の実施

国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する協議会

5商船高専で連携し、「1．海洋人材の育成」と「2．海洋の魅力を伝える広報活動」にかかる事業に取り組んでいる。

次世代の海洋人材の育成に関する事業
（1．海事・海洋分野の人材育成事業の実施）

国立高専における
次世代の海洋人材の育成

海事・海洋分野の人材育成事業 【活動報告・活動計画】

海運業界のニーズに将来にわたって応え続けることのできる次世代の人材を育成するための教育システムを，産学で連携して検討し開発してきている。令和3年度も引き続き教育の高度化を進めるとともに，現代の青少年世代の生活様式や社会的性格の変化を踏まえて，新しいキャリア教育のありかたに関する議論にも取り組んでいる。

海事人材のグローバル化に対応した教育プログラムの開発

- 将来の海運業界のニーズに応える**実務英語教育**の体系について整理
- ５校に設置されている**グローバル教育拠点**をテレビ会議システムによって相互接続し，オンライン英語学習講座を開催
- ハワイの海洋系団体と連携した**国際交流プログラム**をオンラインで継続しつつ，アフターコロナ時代の国際交流のありかたについて検討

海事・海洋分野の技術革新に対応した教材の開発

- 将来の海運業界の変化を見据えた内容の新しい教科書を継続的に開発中，「**船に学ぶ基礎力学**」を刊行予定
- **eラーニング教材**の拡充や**BYOD**（Bring Your Own Device）の活用を継続的に推進し，コロナ禍の中でも学びを継続
- 資格取得を目標とした**学生の自学自習を支援するシステム**を構築

現役の海事・海洋人材によるキャリア教育の実施

- 連携協力機関の講師による**海事キャリア教育セミナー**を５校で随時開催，コロナ禍の中でもビデオ教材として５校で共有
- **卒業生とのキャリアミーティング**や，学生が**小中学生**に海事・海洋の魅力を伝える機会を，随時実施
- キャリア教育のありかたに関する**海運業界関係者**と高専教員との**意見交換会**を実施

- ５校の委員による**企画委員会**（年10回）と，５校と５連携機関の委員による**運営委員会**（10/15, 2月）を，テレビ会議システムを利用して開催，また各サブプロジェクト毎の委員会も随時開催
- 業界関係者の意見や学生の評価なども踏まえてPDCAを推進

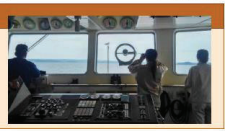
海運業界に関する高専教員の理解を深めるFDの実施

- 海運業界における環境対策や自律運航などに関する最新動向について，高専教員の知見を深める研修および施設見学を1/13～14に実施予定

- **令和3年度KOSENフォーラム（機構本部主催）にてオーガナイズドセッションを実施**
  - 令和3年12月13日(月) 9:00～10:20
  - Microsoft TeamsによるWeb会議
- **Webサイト**を通じて事業の成果を社会に発信中，3月には**年次報告書**を掲載予定

今後に向けて

- **学生の英語学習意欲とTOEICスコアの向上**を目標として**体系的かつ実務的な英語教育**の高度化を推進
- **海事分野と海洋分野のイノベーション**に対応する**新しい内容の教材や新しい形態の教育システム**を開発し展開
- 次世代の海運業界の担い手となることを志す学生たちの**キャリアデザイン形成**を支援する体制を充実
- 海事教育機関と海運業界との間の**コミュニケーションと相互理解**を深化させ人材育成のPDCAを推進



主幹校：富山高専

(3)国際インターンシップをハワイ(KCC)とシンガポール(SMA)で年度末に実施

ハワイ大学KCCとの国際交流プログラム(オンライン)
2022年春季　実施要項

目的
カウアイ島を含むハワイ諸島の文化や歴史について学び，異文化交流や英語学習への意欲を高める。
交流先
ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ (Kauai Community College, KCC)
内容
以下の(1)～(4)を1セットとし，それを繰り返す形で，3週間で3セットが行われる予定。
(1) ハワイの生活や伝統航海術などに関するビデオの視聴(英語音声＋英語字幕)
(2) ビデオの内容に関する課題学習とオンライン掲示板でのディスカッション(英語)
(3) ビデオの内容に関するビデオ会議でのディスカッション(英語)
(4) ハワイの大学生とのビデオ会議での交流(英語)
日程
上記内容のうち(3)と(4)のビデオ会議は，以下の日時(いずれも日本時間での表記)に実施される予定。
第1回　2月26日(土)　午前09:00～11:00
第2回　3月　5日(土)　午前09:00～11:00
第3回　3月12日(土)　午前09:00～11:00
対象者
富山高専・鳥羽商船高専・広島商船高専・大島商船高専・弓削商船高専の商船学科の1～5年生
定員　5校合計で最大20名

(1)次世代の海洋人材に求められる実務英語教育の体系構築

実務英語の体系化

1　**定常作業（整備作業）・・・専門用語による定型フレーズ**
2　**作業前ミーティング・・・専門英語と英会話**
3　**マニュアル読解力、機関理論・・・専門英語の名詞、動詞**
4　**緊急時対応・・・ERMシナリオを利用**
5　**世間話による円滑化、チームワーク強化**
　　・・・英会話力（一般教育英語）
6　**安全管理・・・ISMコードの理解**
　　＝各船社のSMSマニュアルの理解

専門英語は、
定常作業、マニュアル読解に特化し、
上級機関英語講習用テキストを作成予定

英会話力は、
低学年：**「商船英語への船出」**で英語教育啓蒙→一般教育英語へ

上級生：**グローバル教育拠点**を利用し、TOEIC対策と英会話力育成

一般教育英語教員へ指導内容を依頼することは困難だが、英会話力の向上を依頼することは容易。

一般教育と連携強化

次世代の海洋人材の育成に関する事業
（２．海事・海洋分野の魅力を伝える広報活動の実施）

国立高専における
次世代の海洋人材の育成

海事・海洋の魅力を伝える広報活動【活動報告・活動計画】

教育機関や海事団体などと連携した海事・海洋の教育イベントを行う。児童生徒を中心としながらも幅広い世代に海洋に触れる機会を設け、将来日本の海洋産業を支える人材の発掘と確保を目指した広報活動を展開する。

【実施体制】

連携の深化を図り全国的な広報活動を展開

自治体・港湾・海運・教育委員会・学校長会等と５商船系高専が連携を深め広報活動を展開する。

【実施目的】

将来日本を支える海洋人材の発掘と確保

【実施事業】

全国展開・感染症への対応

海事啓発ポスターの作成・配布

・全国の中学校及びフェリー会社、駅など**1500カ所**に対して、**海事啓発ポスター**を作成し配布した。

出前授業（WEB対応）用の教材開発

・小中学生を対象とした、出前授業（WEBにも対応）用の**PowerPointによる教材作成、遠隔出前授業**を実施した。

学生主体のWEBによる海事・海洋の啓発イベントの開催

・次世代の海洋人材を担う小中学生、教員、保護者などに対し、海事海洋への関心を高めるため、**商船系５校商船学科の紹介動画**を作成し、オンラインでの配信を実施した。　**（参加登録数　73組）**

（WEBによる遠隔出前授業）

全国展開

（学生主体のWEBによる海事・海洋の啓蒙活動）

海事・海洋に関連した教育イベント

教育機関・海事団体等と連携したイベントを開催し，海洋に関する理解を促進させた。

体験講座

・小中学生、教員、保護者などを対象とした、**練習船体験航海、実習艇体験、カッター体験等**を実施した。
(計18件実施、参加者1218人)今後実施予定数含む

（練習船体験航海講座）

出前授業

・小中学生を対象とした、**出前授業**を実施した。
（海洋環境、海のごみ、マイクロプラスチック、船の仕事の話、海運の重要性、輸出入、造船業等）
(計19件実施、参加者1193人)今後実施予定数含む

（海洋環境出前授業）

昨年より改善できている点や今後の改善目標

WEBを活用した広報活動（遠隔出前授業・イベント）を拡張し、イベントでは**R２より約３倍**の参加者数があった。今後はイベントをさらに全国展開すると共に、参加者数の拡張に努める。感染症の影響により、不特定多数参加のイベントから特定数（登録制・学校単位・クラス単位等）参加のイベントへと軌道修正を行う必要がある。

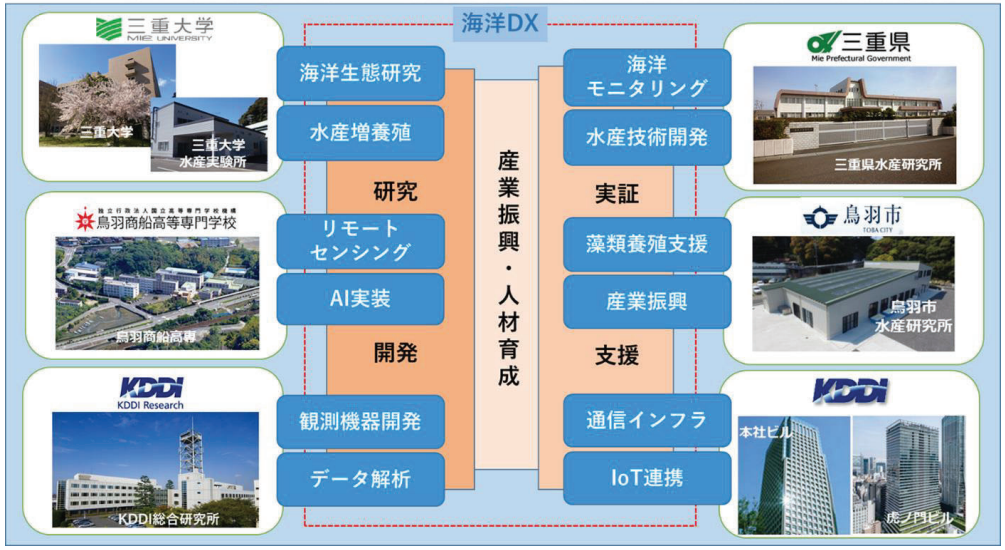
主幹校：広島商船

他機関との連携

5G・IOT活用、海洋DX推進に向け連携協定

令和3年3月16日
水産業の課題解決に向け、産学官の連携による新たな水産業モデルを構築

三重県における海洋DX研究開発・導入の促進に係る産学官連携



KDDI・KDDI総合研究所との包括連携協定

令和2年11月17日
KDDI、KDDI総合研究所、地域DX推進と人財育成

鳥羽商船高専が三重県で行う学術研究、KDDI、KDDI総合研究所が持つAIやIoTデバイスなどの先端技術を活用し、農業・水産業における人手不足の課題を解決。

新たに構築する5Gネットワーク環境（令和4年3月開局予定）を通した他地域との交流により、地域全体のDX推進に向けた人財育成を実施。

中電CTIとの包括連携協定

令和4年1月14日
中電CTIと地域貢献・学術的活動・人材の交流、育成及び等に関する包括連携協定を締結

ローカル5Gを活用した操船支援情報の提供および映像監視による港湾内安全管理の取組み

令和3年度
　ZTVを代表機関として、港湾における船舶着岸時の事故や停泊船舶の安全監視の不十分性、港湾間競争の激化・労働者不足等を解決するためのローカル5G実証実験を実施

地域との連携・貢献

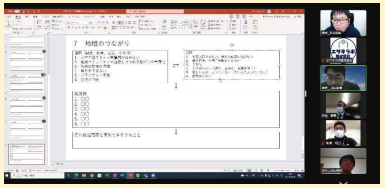
県内機関との連携

三重県との連携

- 三重県工業研究所との連携協力に関する協定書調印（H30年1月16日）
  　三重県工業研究所海洋観測ブイの共同開発
- 三重県を代表機関とする「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」参画
- 三重県農林水産部からの受託研究
  　ドローンによる藻場の分布や変化等の情報を「見える化」するシステム
  　AI・ICT技術の導入による魚類養殖用疾病早期発見システムの開発
- みえスマート水産業研究会　会長

鳥羽市との連携

- 鳥羽市との包括協定締結（H30年3月28日）
  　GIGAスクール運営支援　市内小中学校へのICTサポート
  　農業向け灌水システム構築支援、ゴミ分別サイト更新
  　市職員との課題解決オンライン会議



志摩市との連携

- 沿岸域海況ドローン調査を実施

地域貢献

みえアカデミックセミナーで講演

今年度の講演タイトルは以下2件
「船の機関室を大航海（公開）」
「日常の健康管理に向けたデバイス開発研究の紹介」

公開講座

船員の仕事in鳥羽商船（鳥羽クルーズ）
親子で工作（ソーラーで動くおもちゃ工作）
おもしろ理科実験
Ichigo Jamでマイコンプログラミング

感染症拡大の影響で
中止になったものも有る

出前授業

・県内伊勢志摩地区　小学校　2校
・県内伊勢志摩地区　中学校　2校

NPO法人故郷の海を愛する会

JMU津造船所見学と鳥羽商船高専の練習船で体験航海
遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話

5. 学生支援・生活支援

学生相談室

1. 学生相談室の体制
   - 学生相談室長
   - 学生相談室員4名（うち1名が副室長）
   - 看護師1名
   - 相談員（非常勤）1名
   - 臨床心理士2名（1名は週1回、1名は月1回）
   - 精神科医1名（月1回）

2. 令和2年度相談件数(2/28時点)

   相談数　のべ161件

   → うち、精神科医・臨床心理士とのカウンセリング 88件（昨年比大幅減）

   注1) 教職員からの相談も含む
   注2) メンタルヘルス調査による呼び出し面談数は含まない

3. メンタルヘルス調査の実施

   7月・11月の計2回、全学生に対して「高専生活に関するアンケート」をオンライン(forms)で実施した。結果を分析し、要支援と学生相談室が判断した学生を呼び出して面談した。必要に応じて精神科医・臨床心理士とのカウンセリングにつなげた。

4. メンタルヘルスに関連する授業の実施
   - i. 本校非常勤カウンセラーによる授業の実施
     - 5月19日 「充実した学生生活のために　自分の考え方のくせを知る方法」(1年生)
     - 2月9日 「死にたいと思う時、死にたいと思う人が近くにいる時の対応」(1年生)
   - ii. 外部講師との連携（協力：一般教育科 中平教員）
     - 7月14日　性教育についての講演(1年生)
     - 11月24日　鳥羽市健康福祉課子育て支援室「デートDV防止啓発講座」(1年生)
   - iii. その他
     - 4月21日　学生相談室の紹介(1年生)

5. 啓発活動
   - i. いじめ防止のためのポスターの作成と掲示、およびチラシの配布
   - ii. 学生相談室だよりの発行（計4回）
   - iii. FD研修の支援
     → 早川先生による講演「いじめ問題への対応」(11月)

6. 次年度以降の課題
   - i. スクールソーシャルワーカーの導入
   - ii. メンタルヘルス調査回答率の向上（他高専でも問題になっている）

教務主事室による支援

学生支援　教務主事主導

まなびの継続（授業における感染症対策）

新型コロナウィルス感染防止のため、対面授業を基本としながら、いつでも遠隔授業に切り替えられるよう柔軟な授業形式とした。

1. Microsoft Teamsを利用した授業
   全ての授業にてMicrosoft Teamsの会議システムを利用した授業を実施した。
2. 時間割による対応
   分散登校に対応した時間割とし、昼休みに20分の消毒時間を設定した。
3. 教室における対策
   クラス人数を考慮した教室配置とし、マスク着用・換気・消毒を徹底した。
4. オンライン全校集会
   全校集会などは録画を視聴する形式とし、３密を避けた。
5. 鳥羽丸実習における対策
   宿泊を伴う練習船実習は中止し、船内での密を避けるためクラスを半数に分け交互に実習を行った

学生支援　教務主事主導

まなびの継続（感染拡大時の対応など）

1. 前期（5月・6月）一部遠隔授業の導入
   クラスごとに登校日・遠隔授業日を設定し、遠隔授業ができない実習等に対応した。Wi-Fi環境が不安な学生には教室を解放した。
2. 後期（1月・2月）自由登校の導入
   授業は教室で行い、登校が不安な学生に対し遠隔での受講を可能とした。
3. 試験の実施
   中間・期末試験は登校して実施した。登校できない学生には追試を実施した。
4. 会議システムの機能の有効利用
   学生への連絡や時間割、学生からの欠席等の連絡リンク等を一か所にまとめ、学生との情報共有を円滑に行った。

実施事項など

1. 出欠席の確認
   学生からの出席連絡をオンラインとし、欠席情報は「出席確認サイト」に取り纏め、教職員間で共有した。
2. 保護者懇談会（前後期各1回）
   保護者懇談会は、対面及び電話で行った。そのため、資料は事前に各家庭へ郵送した。
3. ３主事室連絡会（毎週月曜日）
   教務主事室、学生主事室、寮務主事室及び学生課の間の情報共有、意見交換を目的に実施している。
4. 全校集会での講話（前後期の始業式と終業式）
   校長、教務主事、学生主事による講話を事前に録画し各HRにて視聴する形式とした。保健室・学生相談室などの利用についても周知している。
5. Teamsを用いた授業のサポート
   PCや配信のトラブル等に対応した。

教務室主催の教員FD

「課題解決型の教員FD」の実施

令和元年度より教務主事室が企画する教員FDとして、教務上の課題を抽出し、検討会を開催して解決案を提案している。本年度も、事前に全教員から提出された「教務上の課題とその解決案」及び、予め選定した「重点項目」に対して検討会を行った。検討会で議論された結果の一部は次のとおりである。

◆「担任の負担が大きいこと」に対しては副担任の導入の提案があり、副担任のメリット・デメリットが議論された。

◆「科目間の連携が不足していること」に対しては、教員間の交流が不足していることが指摘され、教員が交流する場を提供してほしいとの意見があった。

来年度は、本教員FDの提案を受け、①副担任の導入、②教務室のレイアウト変更（交流しやすい雰囲気づくり）が実施される。

学生主事室

1．生活指導

社会人基礎力の育成、学生の安全確保

(1)登校指導

池の浦駅における登校指導

(2)安全教育

自転車安全講習会（校内、Web化、Webテスト）

車両通学安全講習会（校内、 Web化、Webテスト）

車両通学安全講習会（南部自動車学校）

社会規範育成のための講演会（警察、Web化、保護者聴講可）

(3)いじめ防止・SDGs啓発・感染防止啓発

低学年向けのいじめ防止講話

ポスター・動画コンテスト（海学祭、Web開催、鈴鹿高専連携）

「新型コロナウイルス感染症感染防止」「ジェンダー平等」

「いじめのない学生生活」「私の考えるSDGs」

感染防止啓発ポスターの掲示（食堂他）

2．学生会活動支援

学生の主体的・自律的活動の支援

(1)学生会運営支援

評議会、総務委員会、部会等の企画・運営支援（Web化）

(2)部・同好会支援

新型コロナウイルス感染症感染防止対策

換気設備・消毒環境の整備、活動マニュアル整備、活動記録アプリ作成・運営

文化系団体の活動場所の整備（吹奏楽、文芸、軽音）

(3)行事支援

海学祭の運営・企画支援（Web化）

海学祭Webパンフレット　海学祭VLOG YouTube

(4)リーダー教育

リーダーストレーニング（SDGs、Web化、鈴鹿高専連携）

3．連携

(1)地域連携（高等学校生徒指導連絡協議会、警察防犯学生ボラティア）

(2)高専間連携（東海北陸地区、商船高専）

東海地区高専体育大会主幹校（新型コロナウイルス感染症感染防止対策）

令和3年度　高専高度化推進経費・学校改善事業（テーマ：教職員の能力向上に向けた取組）

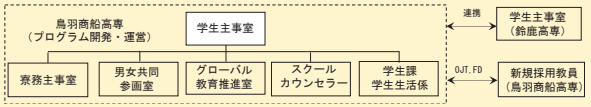
ハイブリッド・マルチ・リレイションシップ型次世代リーダーシップ養成プログラムの開発実践

●実施概要

目的・背景	本事業は、場所・距離・時間に依存せず、かつ通学生、寮生、留学生に隔たりのないDXグループワーク環境を構築し、参加者の多様性がメリットとなる次世代リーダーストレーニングプログラムの開発運用能力の向上を、高専間連携、教職員連携により実現することを目的とする。
取組内容	校長が掲げる「他人の個性を認め、尊重すること」の学生への定着を目的に、学生がリーダーとしての考え方の柔軟性を培うことができるように、人の考え方の違いを知り、ネットワークを介したコミュニケーションの難しさを、ネットワーク上のグループワークにより体験可能なプログラムを開発し、教職員連携による運用により学生指導力の向上を図った。
成果指標	開発プログラム、アンケート

●取組内容の説明

本事業では、「SDGs概説(講義)」、「他人を尊重したコミュニケーションの基本(講義)」、「クループメンバの価値観・多様性を認め、協力して目標達成を行うリーダー力の養成(グループワーク)」のプログラムを開発した。グループワークは、教職員がオブザーバーとして参加し、リーダーストレーニング終了後、学生、教職員のそれぞれの視点で、トレーニング効果や有効性に関して同一項目についてアンケート評価を行った。



実施体制

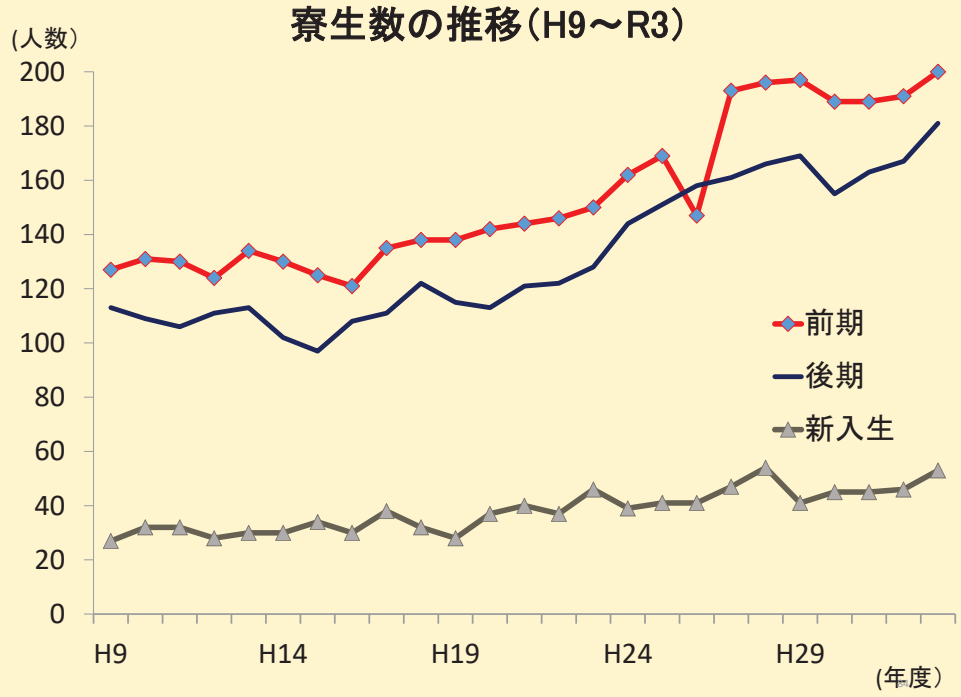
展開

教職員連携による就職支援
セミナーのリモート運営

成果・効果	リーダーストレーニングが、鳥羽商船高専・鈴鹿工業高専連携で開催され、80%を越える有効性が示された。さらに、鳥羽商船高専祭のSDGsをテーマとしたリモート映像コンテストへの鈴鹿高専学生の参加や、教職員連携による就職支援セミナーのリモート運営に展開できた。次年度以降、必ずしもリーダーとならない学生が、平等に開発プログラムを受講できるように展開を図る予定である。

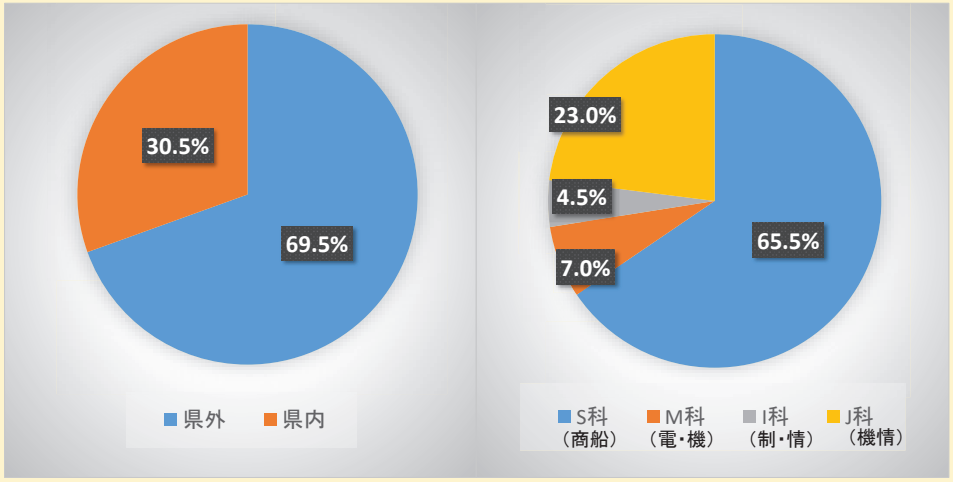
●他高専への有益な情報

本事業を通じて整備したWeb配信環境が、学生会活動に展開され、学生主体による学生会の会議・諸行事のリモート化、映像コンテンツの作成に繋がった。



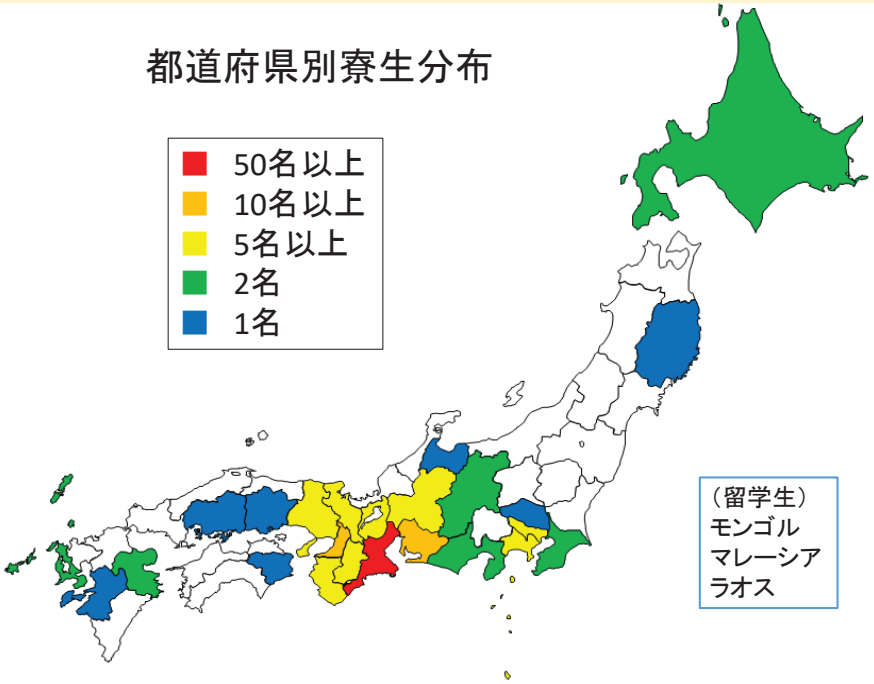
寮務主事室による支援

寮生出身地及び学科別状況（R3）



県内外別（全寮生）　　学科別（全寮生）

都道府県別寮生分布



新型コロナウイルス対策

新学期が始まり、**入寮する際**に抗原検査キットを渡し、陰性の確認をした後で寮に入ることを認めた。また、長期休みの際にはPCR検査キットを事前に渡し、検査機関にて検査をさせた。

諸問題に対する改善への取り組み

寮生との意見交換

寮生役員・世話係学生とのミーティング（各週1回）
全寮集会（月1～2回程度）個別学生との懇談（随時）

学校との意見交換

寮務主事室，寮事務室での打合せ（毎朝）
三主事連絡会（週1回），寮務委員会（年数回）
校長と寮生会役員との懇談会(年1回)
校長と寮生会各学年代表との懇談会（年2回）

高専間での意見交換

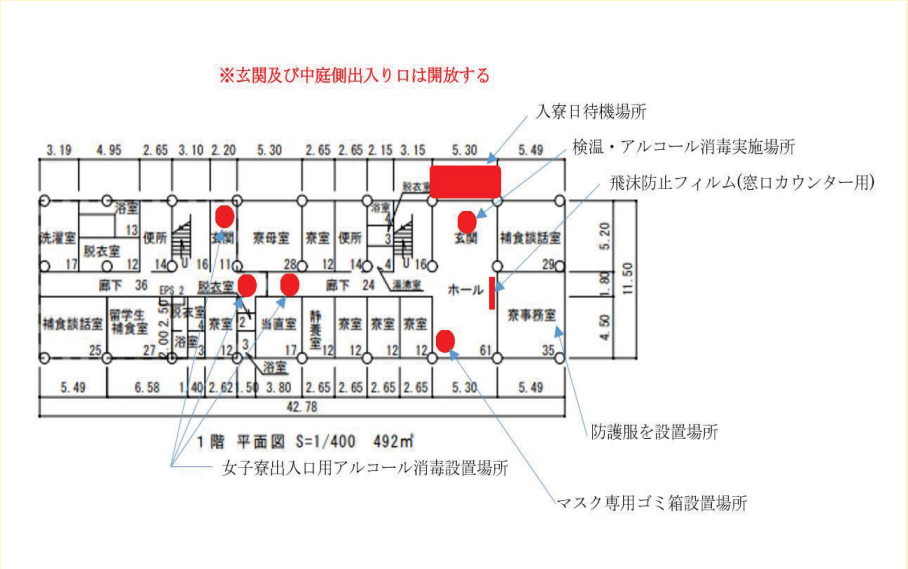
東海北陸・5商船高専寮務主事会議（各年１回）
他高専の寮生会との交流（年1～2回）

保護者との情報共有

春季寮生保護者懇談会（令和3年6月26日）
秋季寮生保護者懇談会（令和3年11月15日）

新型コロナウイルス感染症予防対策MAP作成

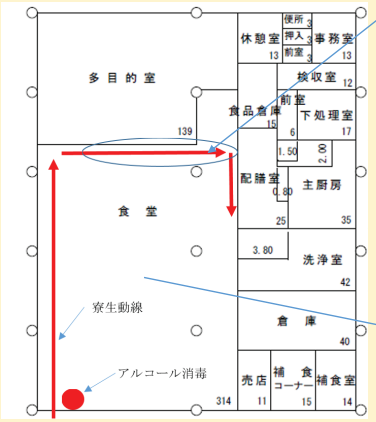
【共同利用区域】
（入口・寮務事務室近辺）



新型コロナウイルス感染症予防対策MAP作成

【共同利用区域】
（寮食堂）

待機誘導ライン設置



（衝立を設置しにより身体的距離を確保）

6. 研究と学生の活躍

新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえでの寮内行事の開催（七夕、クリスマス会、卒業を祝う会）

研究活動

研究方針

地域の発展に貢献できる高専であるために、受託研究の実施や技術交流に取り組み、教職員・学生参画によって地域に寄与する活動を積極的に実践する。

研究活動に関する目的・目標

目的

・企業との連携や、学校としてのシーズを育てるため、未来を見据えて新産業を支える技術を研究する。

・三重県の産業を活性化するために革新をもたらす研究を推進する。

目標

・企業と連携した共同研究や、公募による研究を毎年3件以上推進する。

・自治体や地元企業と連携し毎年3件以上の受託研究を実施する。

地域連携PBLによる成果

令和３年度　外部資金獲得状況

科研費

新規採択及び継続件数　１３件

研究代表者件数　９件

研究分担者件数　４件

共同研究

新規採択及び継続件数　５件

受託研究

新規採択及び継続件数　１０件

受託事業

新規採択及び継続件数　２件

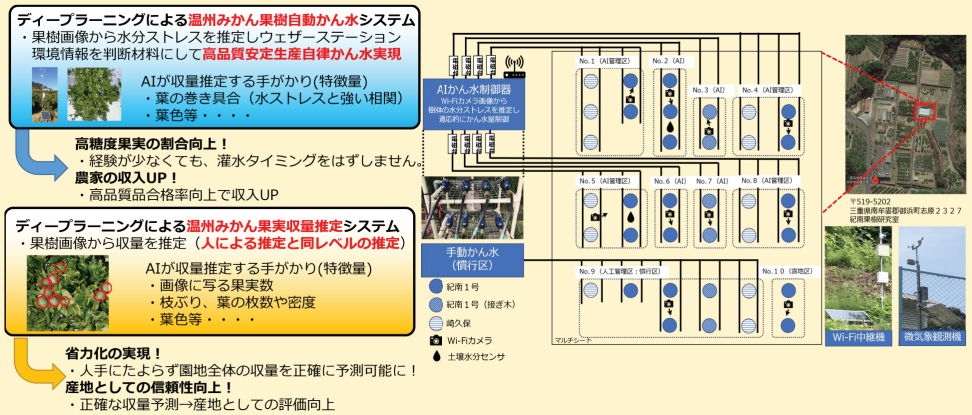
農業支援（AIによる柑橘栽培支援）

ウェザーステーションとディープラーニングを活用した高品質ミカン栽培自動化技術の開発

・三重県の地域特産品である極早生温州みかんAI栽培試験継続中

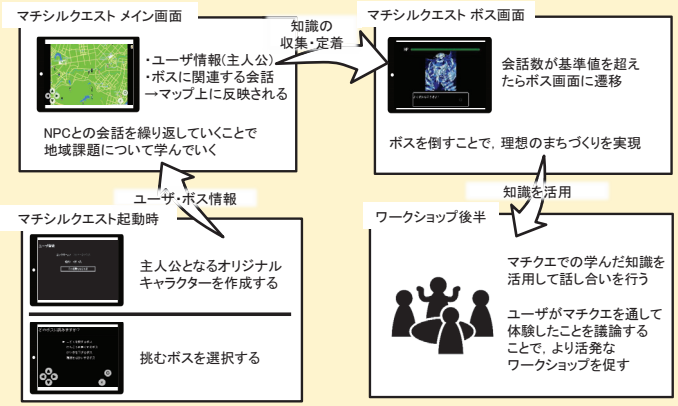
・ウェザーステーションによる微気象観測継続中

・R03年度完全自律かん水による高品質栽培実施試験済



玉城町のまちづくりワークショップ支援

- 三重県玉城町において住民が地域課題解決に向けた話し合いの場をつくるワークショップを実施している。限られた時間の中で住民が地域課題について理解しきれず議論が活発にならない。
- 玉城町を舞台としたRPG風の会話を通じてユーザに地域課題を伝えるシステム「マチシルクエスト」を開発・実証した。



学生の活躍

各種コンテスト

高専プロコン　最優秀賞

高専Deep Learningコンテスト　2位
（企業評価額5億、投資額1億）

高校・高専気象観測機器コンテスト
特別賞　受賞

部活動

東海地区高専体育大会
剣道競技　女子団体　準優勝

東海地区高専体育大会
バドミントン競技　男子個人3位
男子・女子団体　準優勝

少林寺拳法部
インターハイ出場

ご清聴ありがとうございました